

血液製剤使用状況等調査票 2025年度アンケート集計

長野県献血推進協議会輸血療法部会
事務局 長野県健康福祉部薬事管理課
長野県赤十字血液センター
学術情報・供給課 小野 綾香



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

調査の概要

1. 調査目的

長野県内の医療機関における輸血業務の実態を把握し、血液製剤の安全かつ適正な使用の推進に資する。

2. 調査対象施設

2024年度に長野県赤十字血液センターから輸血用血液製剤の納入実績があった長野県内の医療機関

3. 調査対象期間

2024年4月1日～2025年3月31日

4. 回収率 75.2% (79施設／105施設)

N数は設問毎の回答施設に応じて変化する。

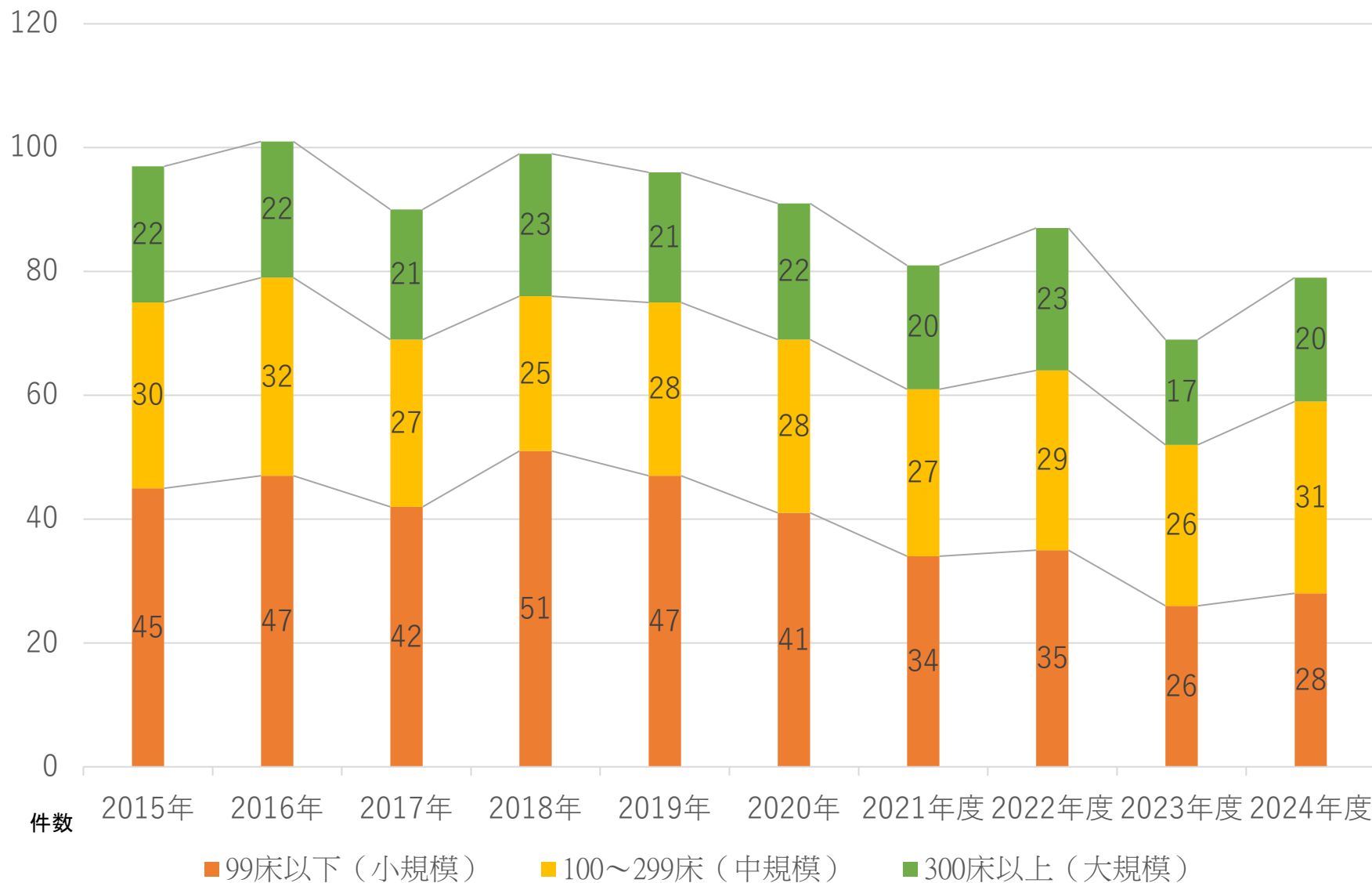
回答医療機関概要

| 施設の種類 | 施設数 |
|----------|-----|
| 大学病院 | 2 |
| 国立病院機構 | 3 |
| 公共・自治体病院 | 18 |
| 厚生連病院 | 11 |
| 日赤病院 | 6 |
| 医療法人関連病院 | 26 |
| 個人病院 | 2 |
| 診療所 | 10 |
| その他 | 1 |
| 合計 | 79 |

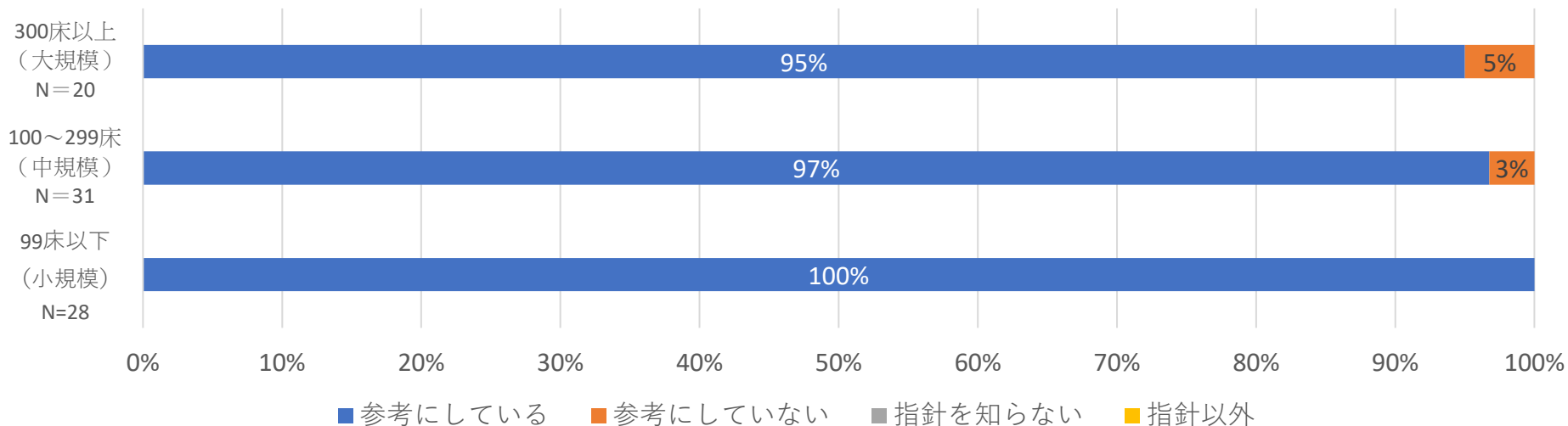
| 病床数 | 施設数 | 規模 | 施設数 |
|---------|-----|-----|-----|
| 0 | 5 | 小規模 | 28 |
| 1～19 | 6 | | |
| 20～99 | 17 | | |
| 100～199 | 23 | 中規模 | 31 |
| 200～299 | 8 | | |
| 300～499 | 18 | 大規模 | 20 |
| 500以上 | 2 | | |
| 合計 | 79 | 合計 | 79 |

調査対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日

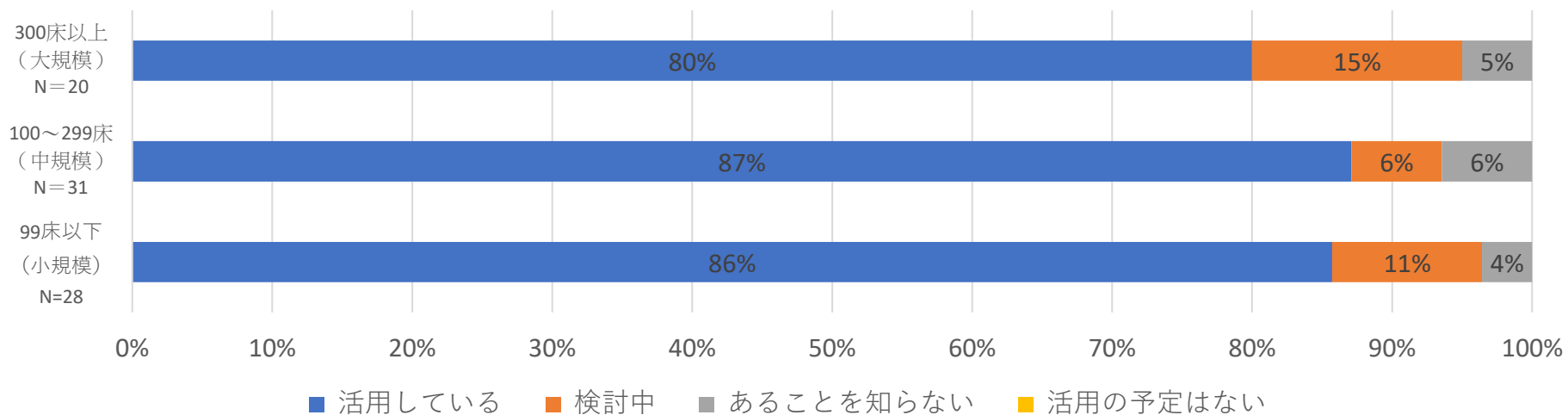
回答医療機関の内訳



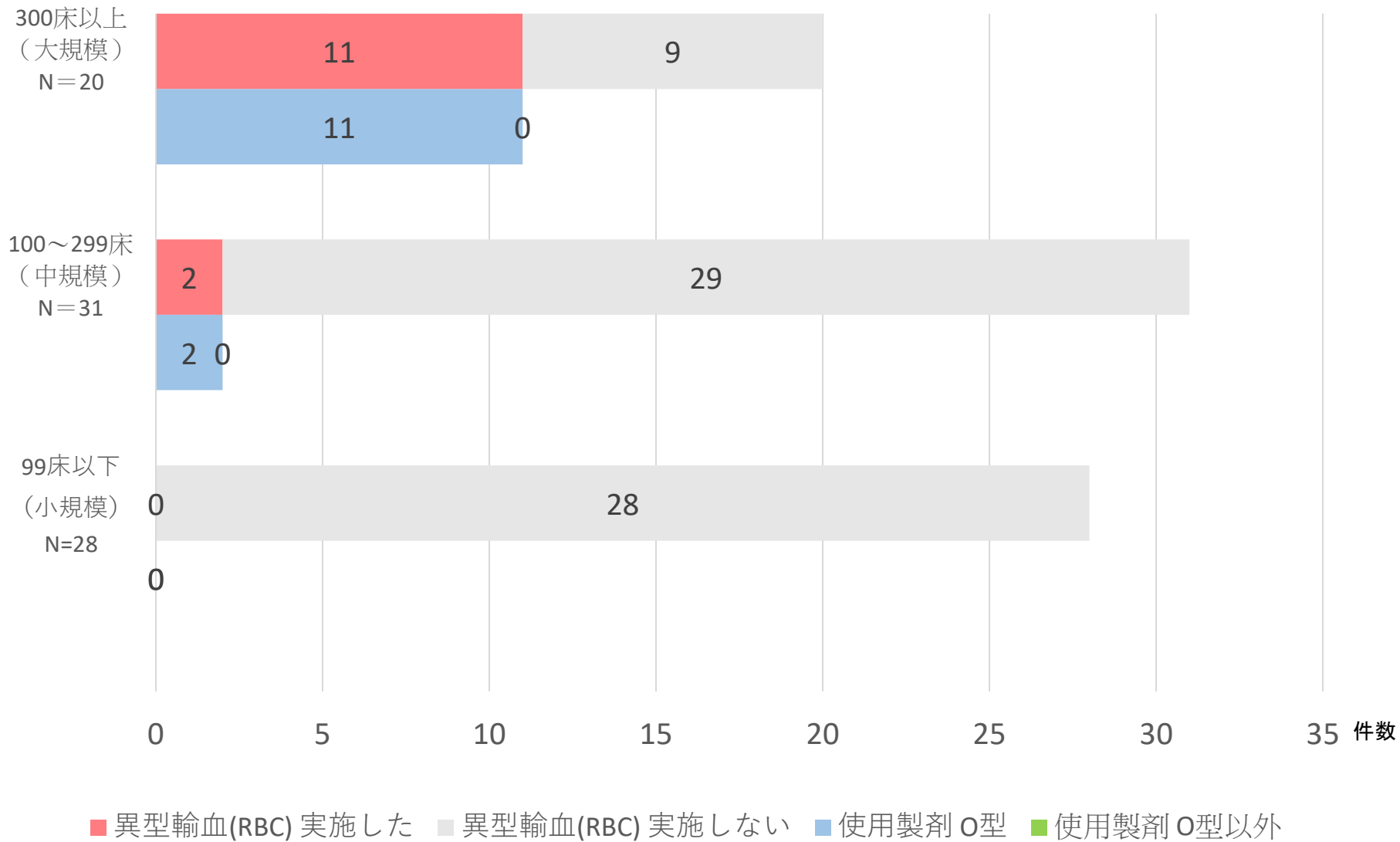
Q1. 厚生労働省の「輸血療法の実施に関する指針」及び「血液製剤の使用指針」について



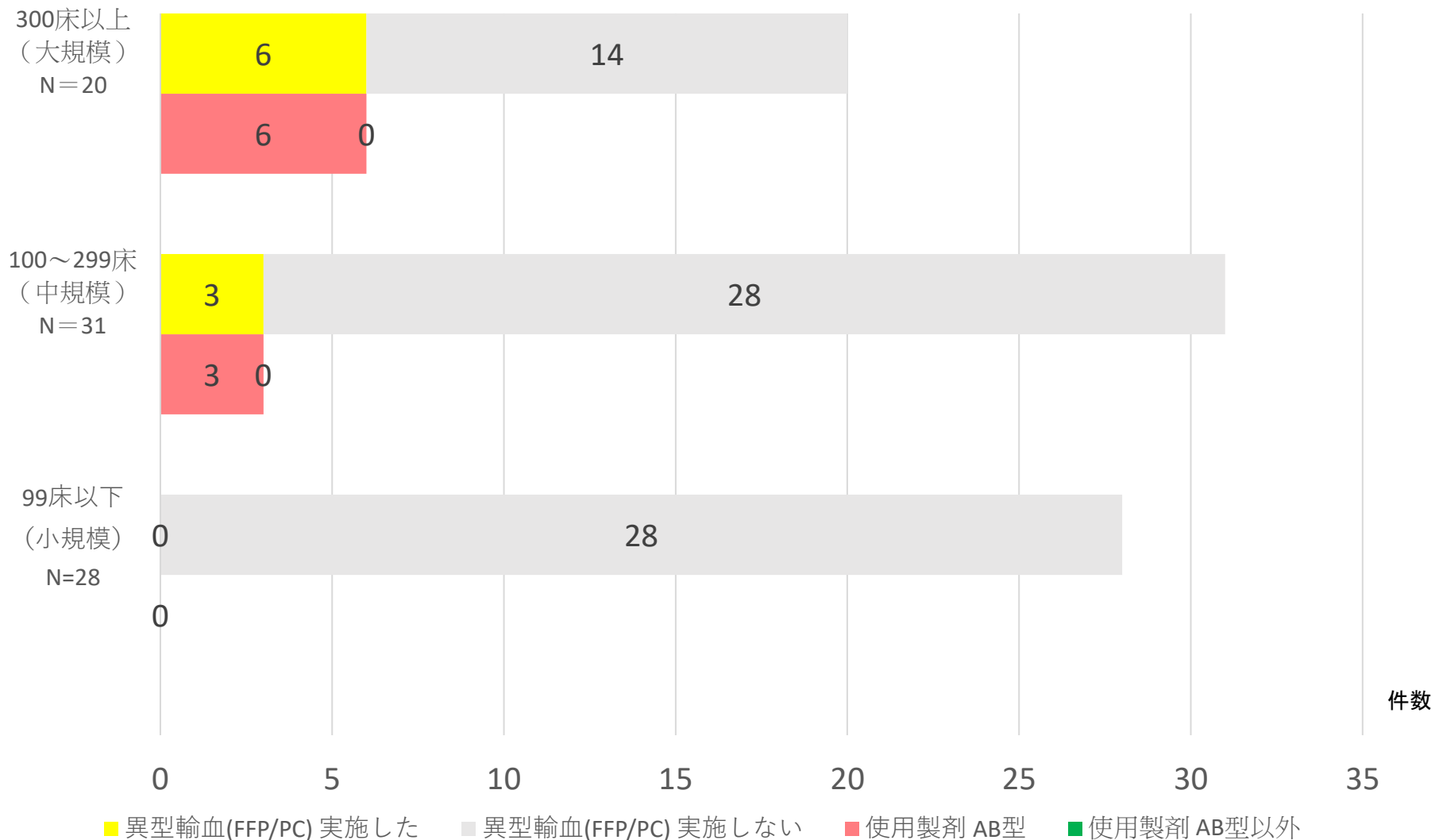
Q2. 「長野県輸血療法マニュアル」の活用について



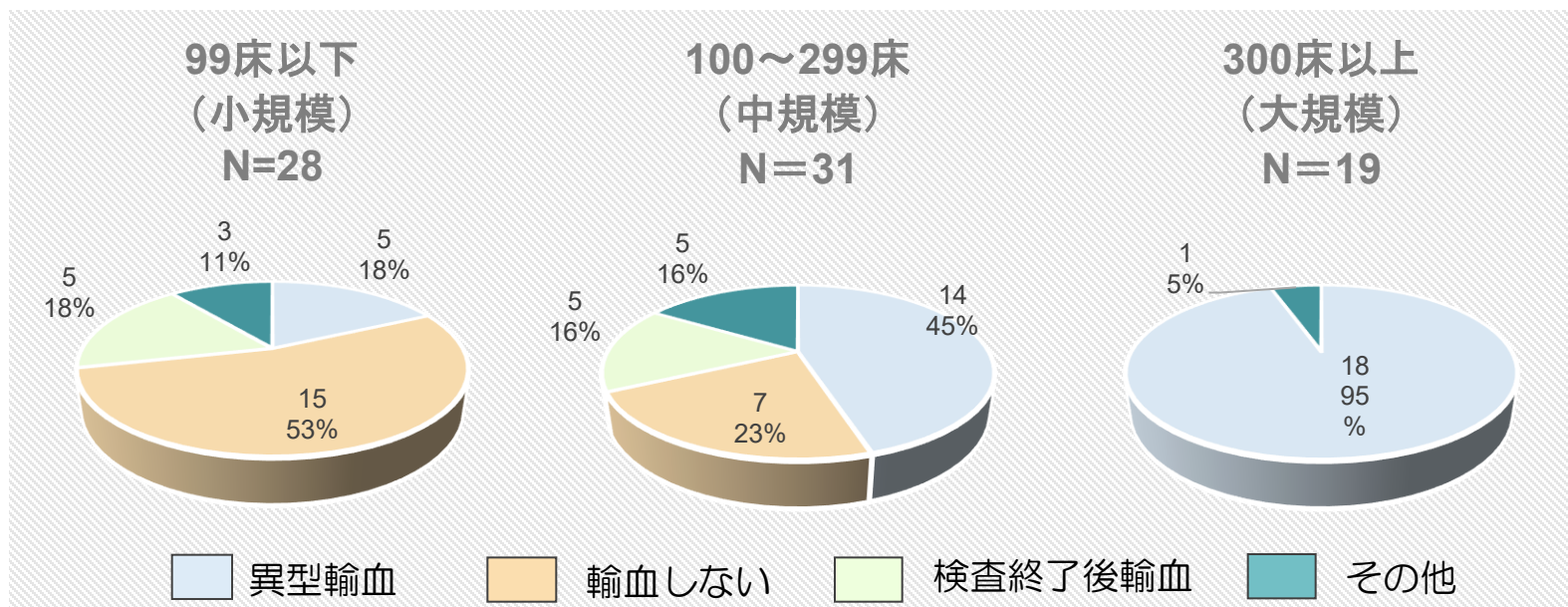
Q3.緊急時、異型輸血の実施状況について(赤血球製剤)



Q3.緊急時、異型輸血の実施状況について(血漿・血小板製剤)

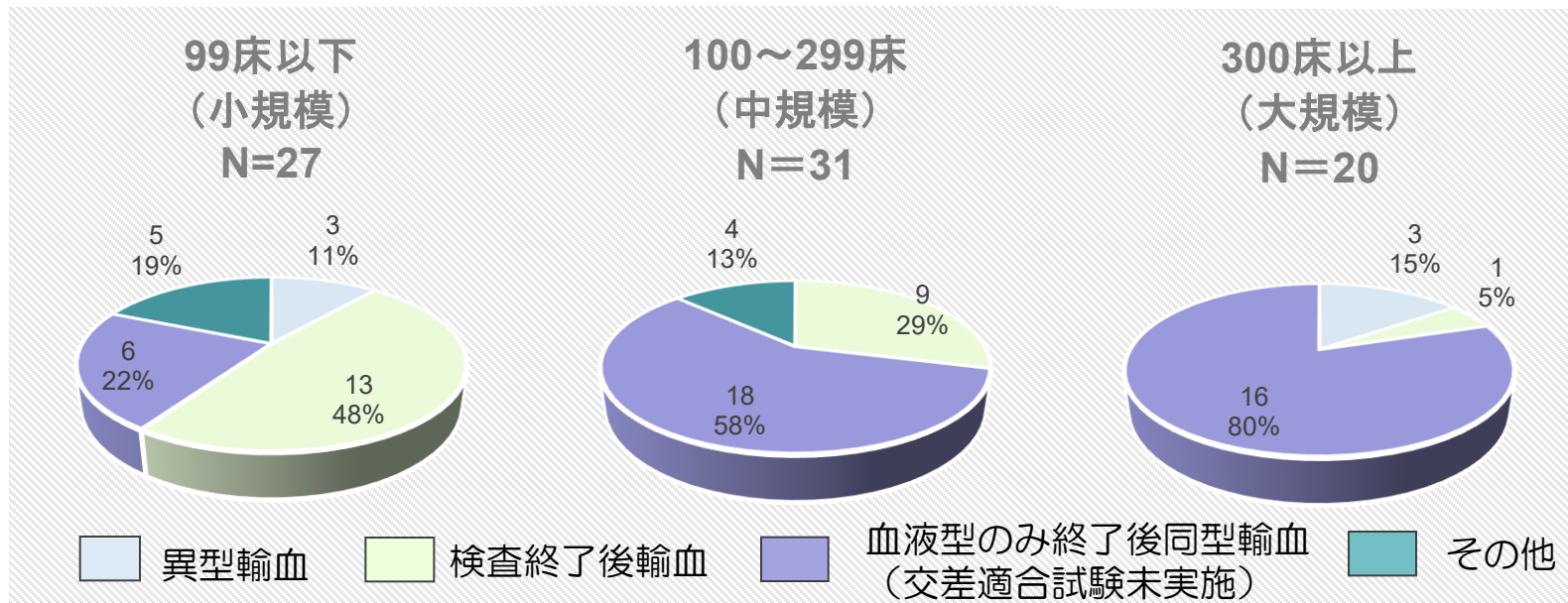


Q4.緊急輸血を直ちに開始する場合(血液型・交差適合試験ができない)の対応



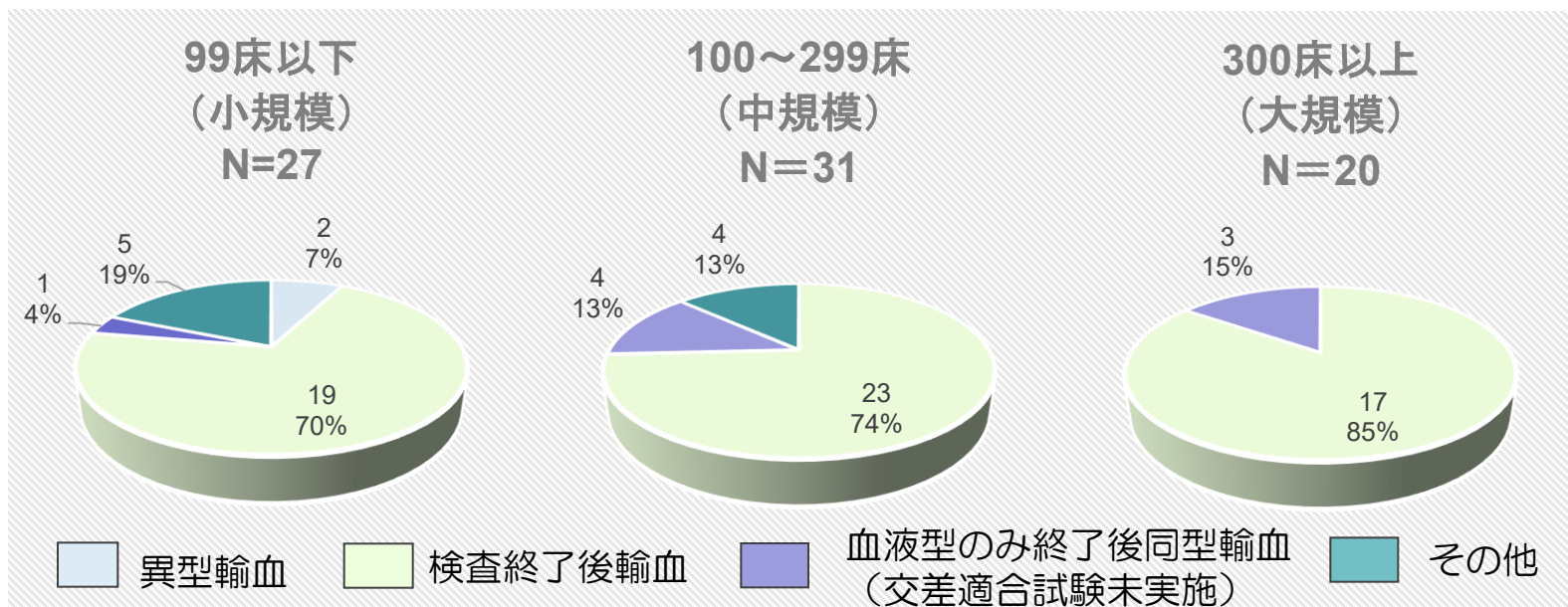
| その他理由 | 輸血と交差適合試験を同時進行する | 他院へ転院 | 院内在庫ないため | 緊急輸血を想定していない |
|----------|------------------|-------|----------|--------------|
| 99床以下 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 100~299床 | 0 | 1 | 4 | 0 |
| 300床以上 | 0 | 0 | 1 | 0 |

Q5.緊急輸血開始までに10～20分程度待てる場合の対応



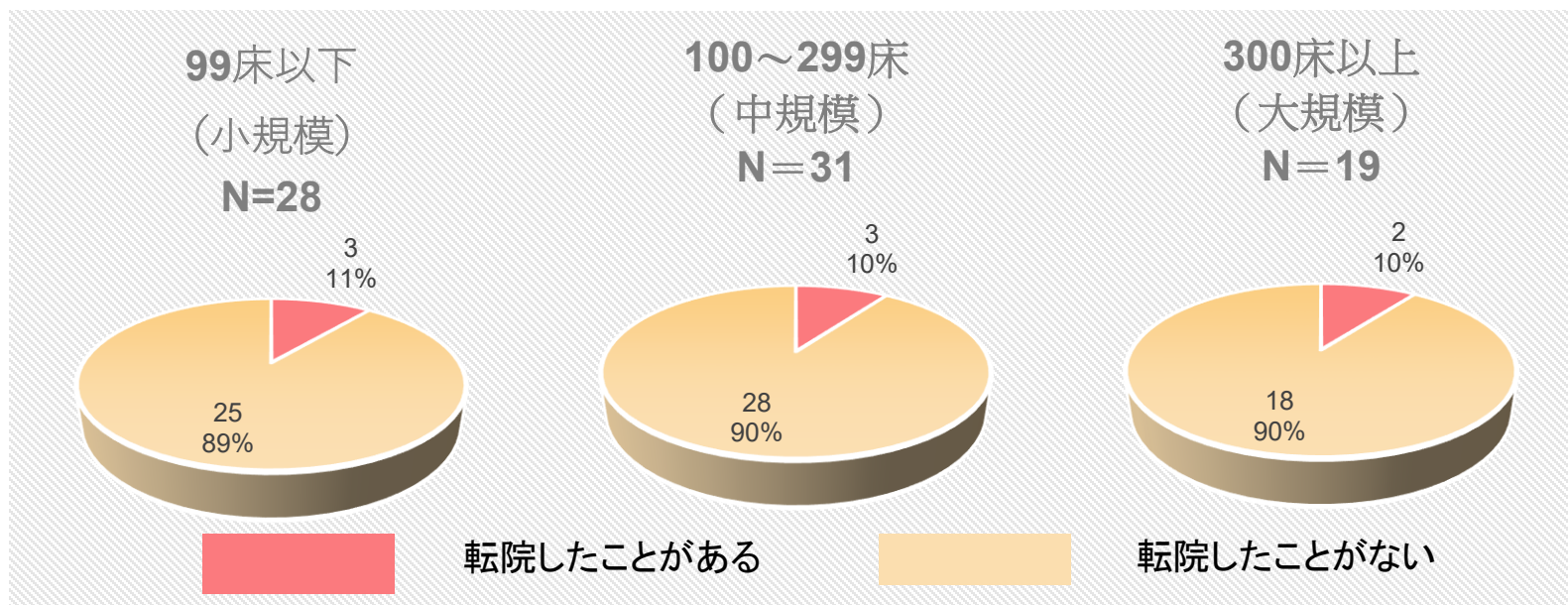
| その他理由 | 転院 | 院内在庫ないため | 緊急輸血を想定していない |
|----------|----|----------|--------------|
| 99床以下 | 1 | 0 | 4 |
| 100～299床 | 0 | 2 | 2 |
| 300床以上 | 0 | 0 | 0 |

Q6. 緊急輸血開始までに30分以上待てる場合の対応



| その他理由 | 転院 | 院内在庫ないため | 緊急輸血を想定していない |
|----------|----|----------|--------------|
| 99床以下 | 1 | 0 | 4 |
| 100~299床 | 0 | 2 | 2 |
| 300床以上 | 0 | 0 | 0 |

Q7.輸血を目的とした患者の他施設への転院の有無とその理由

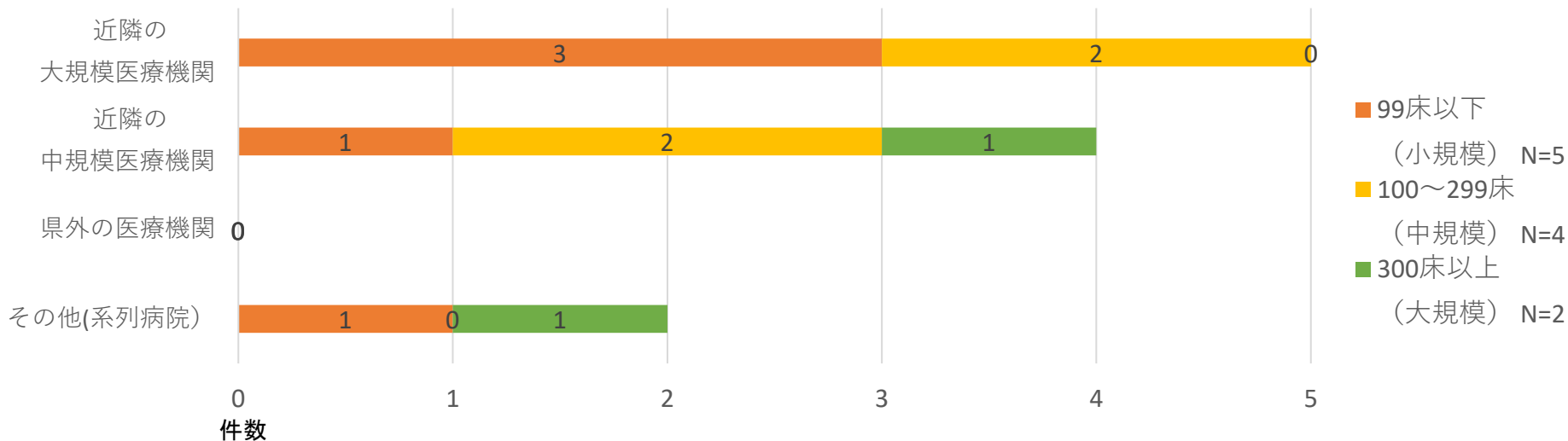


| 理由 | 大量輸血のため | 院内備蓄がないため | 時間外のため | 満床で入院できなかったため | 新生児輸血のため |
|----------|---------|-----------|--------|---------------|----------|
| 99床以下 | 2 | 2 | 1 | 0 | 0 |
| 100~299床 | 1 | 2 | 1 | 1 | 0 |
| 300床以上 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |

複数回答あり

Q8.輸血を目的とした患者の他施設への転院先

複数回答あり



Q9.輸血を目的とした患者の転院先施設との連携状況

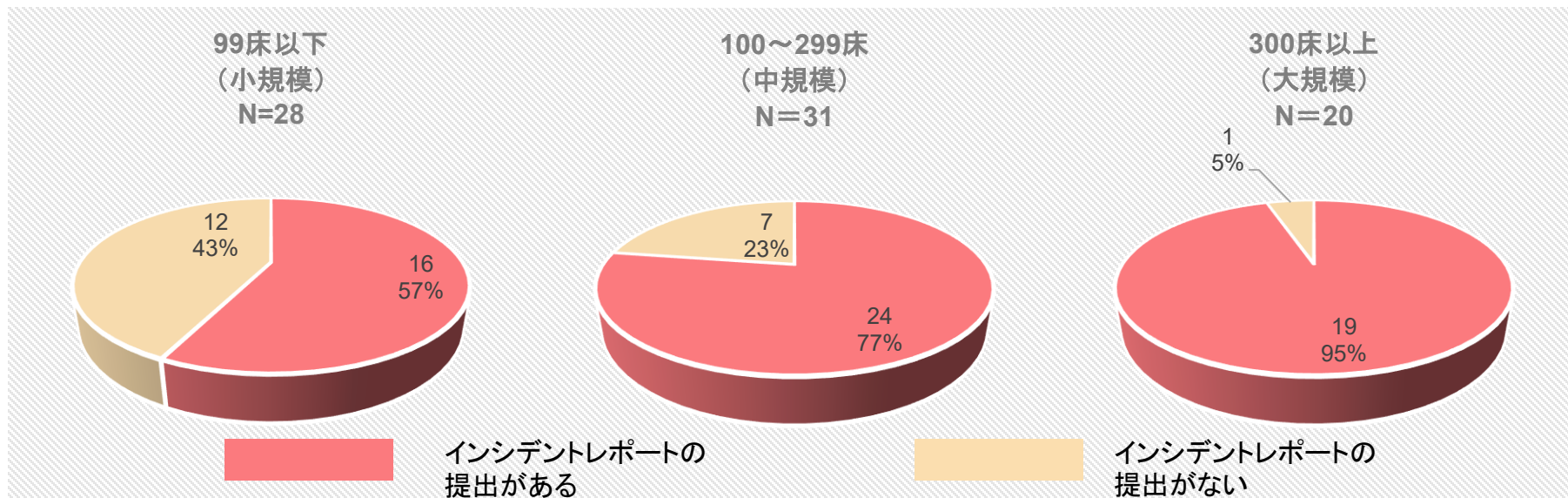


Q10.過去1年間(2024年4月～2025年3月)での病院外輸血の実施施設

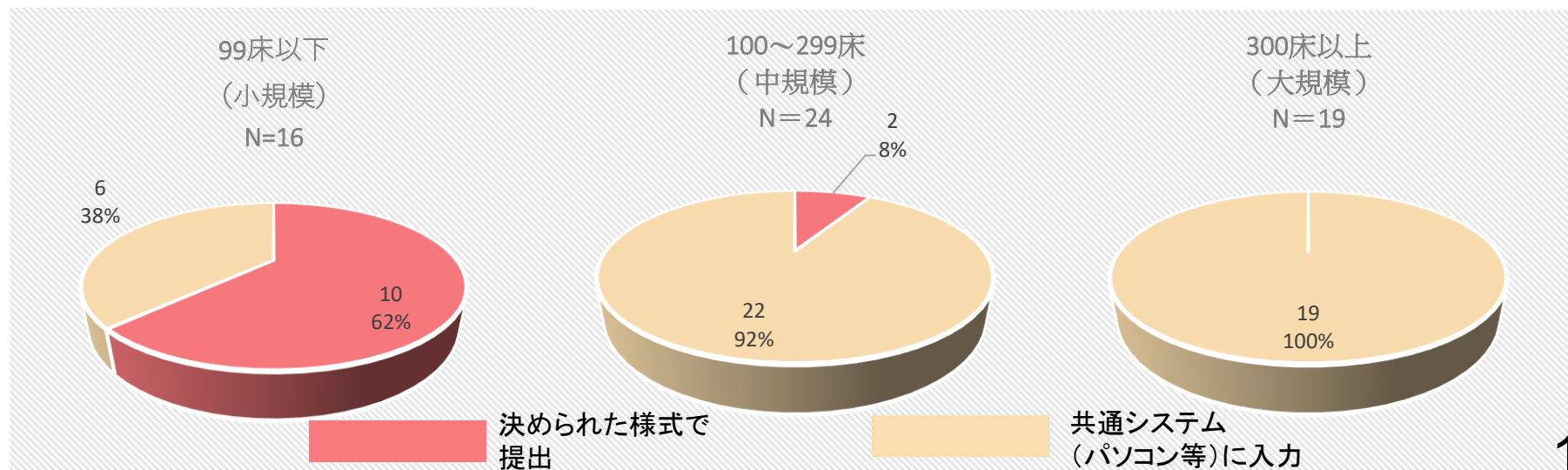
| | 99床以下 (小規模) N=28 | 100～299床 (中規模) N=31 | 300床以上 (大規模) N=20 |
|----------|------------------------|---------------------------|-------------------------|
| 介護施設で実施 | 2 実施回数：2回・3回 | 0 | 0 |
| 在宅で実施 | 0 | 1 実施回数：2回 | 0 |
| 実施していない | 25 | 30 | 20 |
| 今後予定している | 1 | 0 | 0 |

| 今後予定している実施場所 | |
|--------------|---|
| 在宅 | 1 |

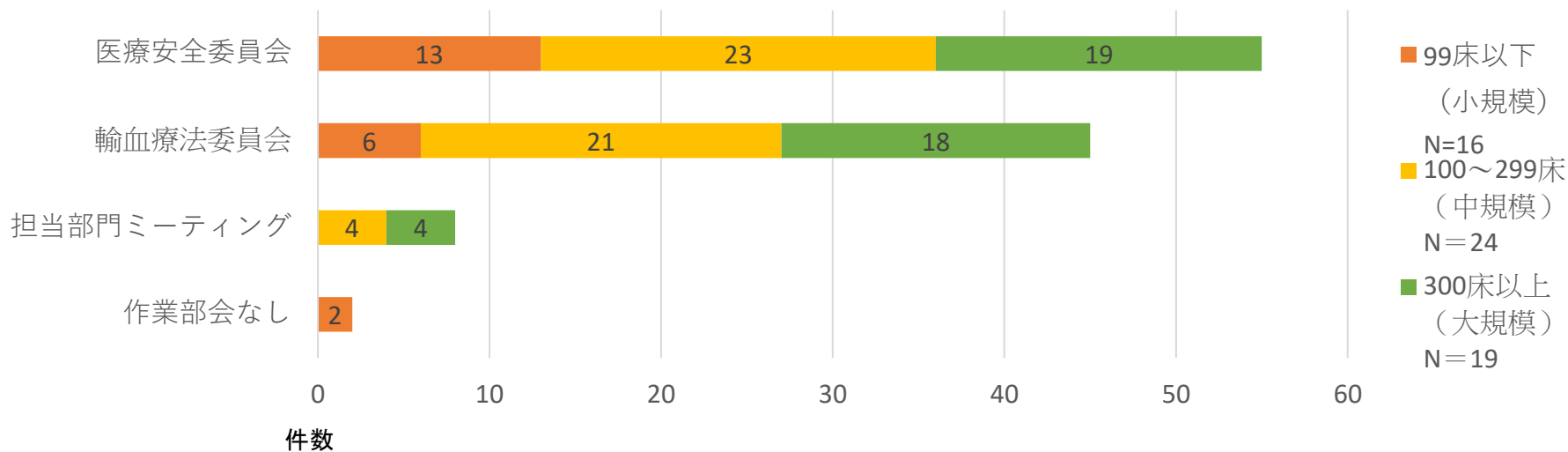
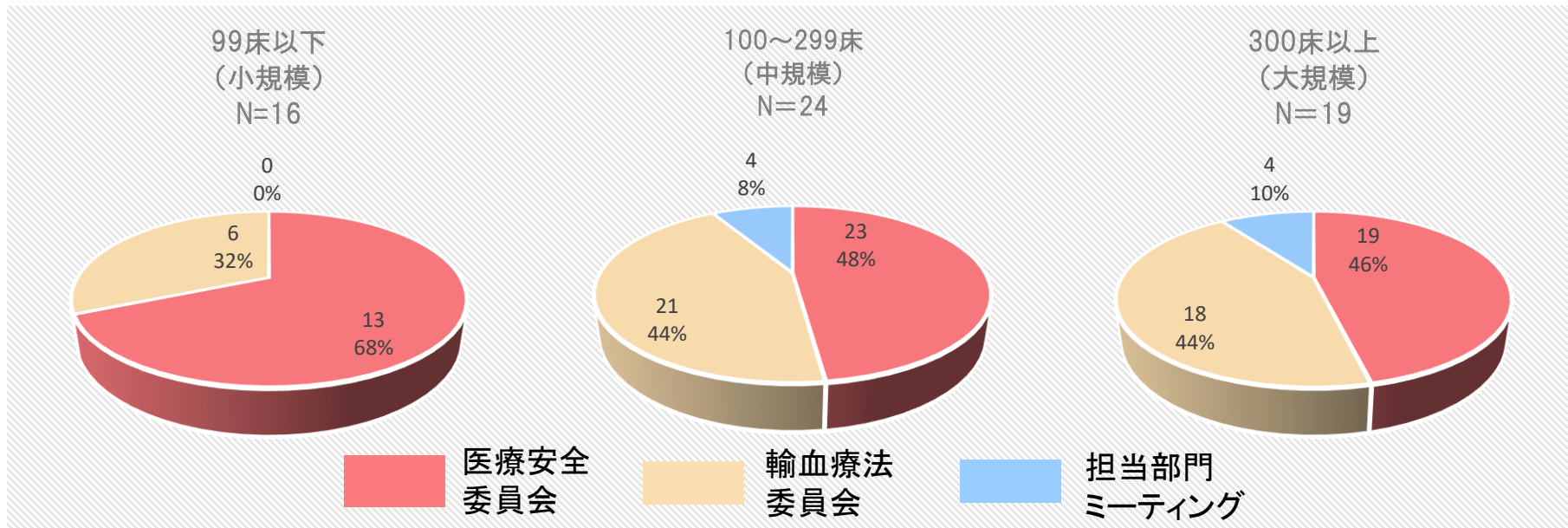
Q11. 輸血関連インシデントレポートの提出方法がありますか



Q12. どのように提出しますか

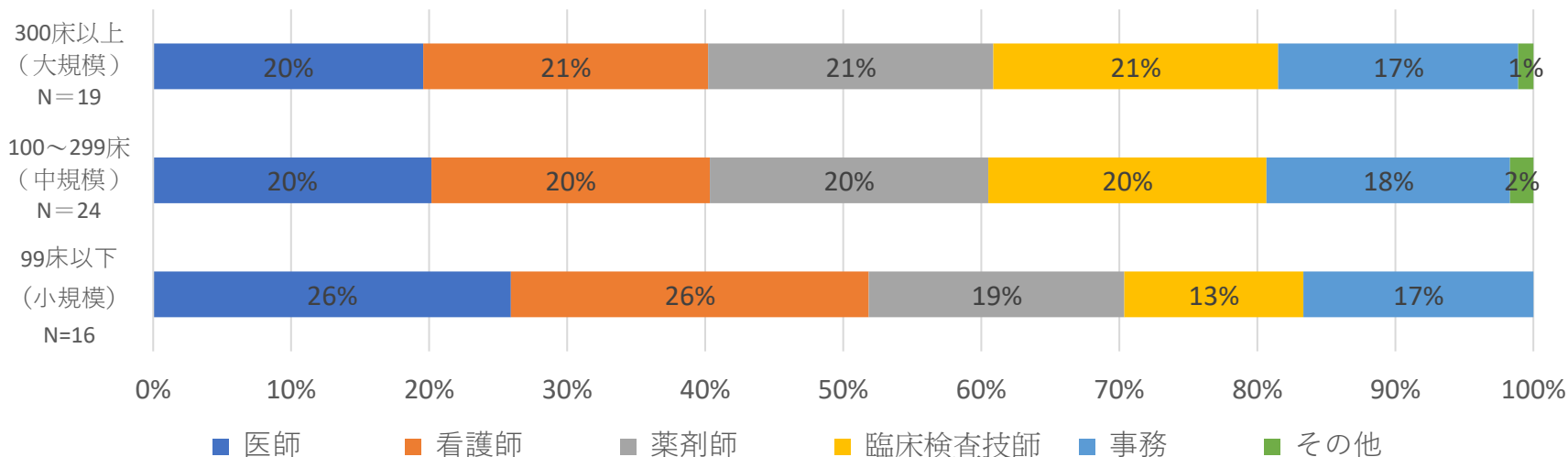
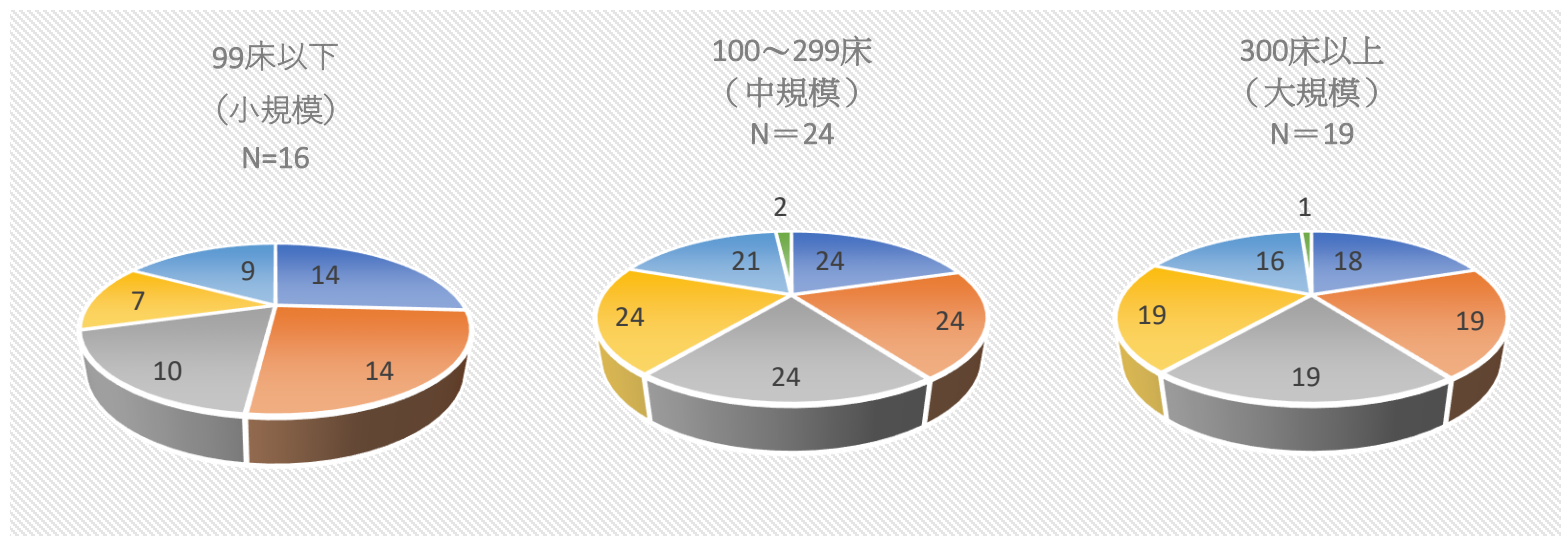


Q13.輸血関連インシデントレポートを分析する作業部会について 複数回答あり



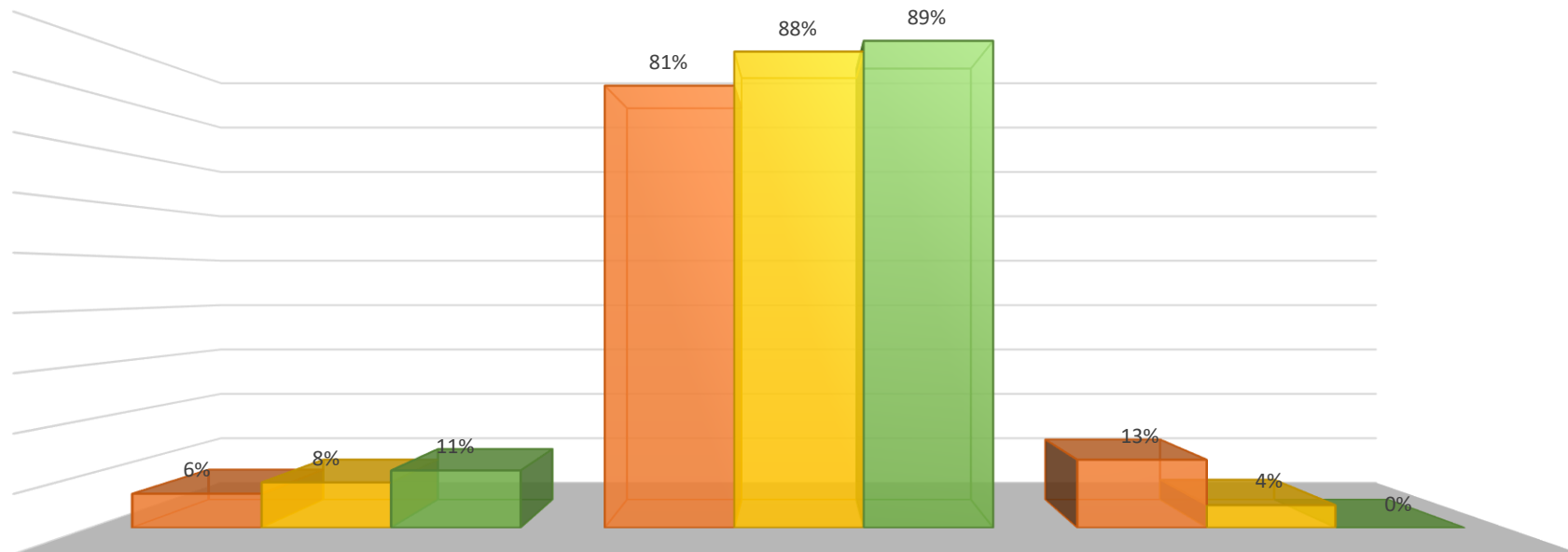
Q14.輸血関連インシデントレポート作業部会のメンバー構成

複数回答あり



■ その他 放射線技師、理学療法士、管理栄養士、臨床工学技士、リハビリ療法士、看護助手

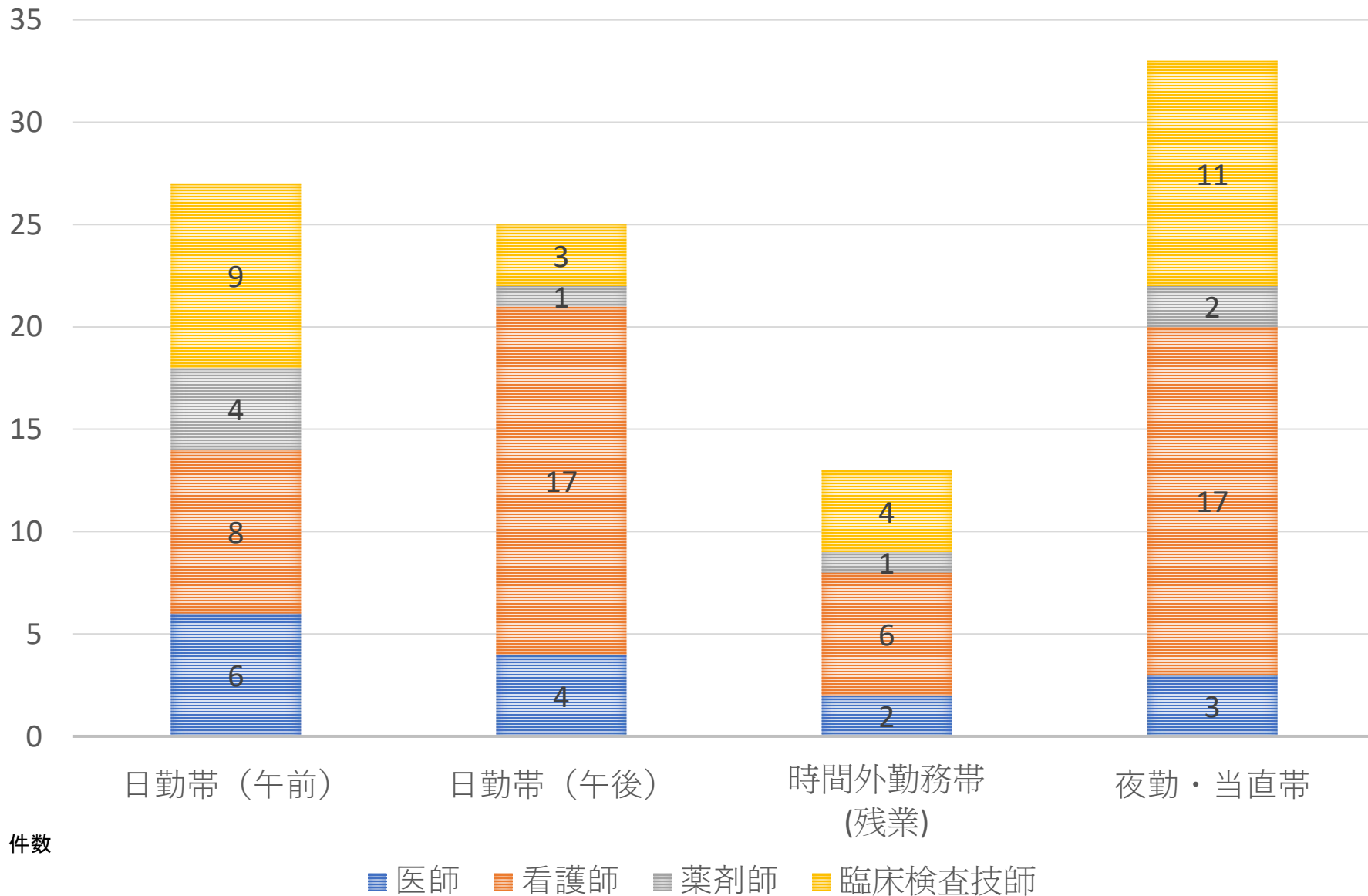
Q15.インシデント事例のレベル分けについて



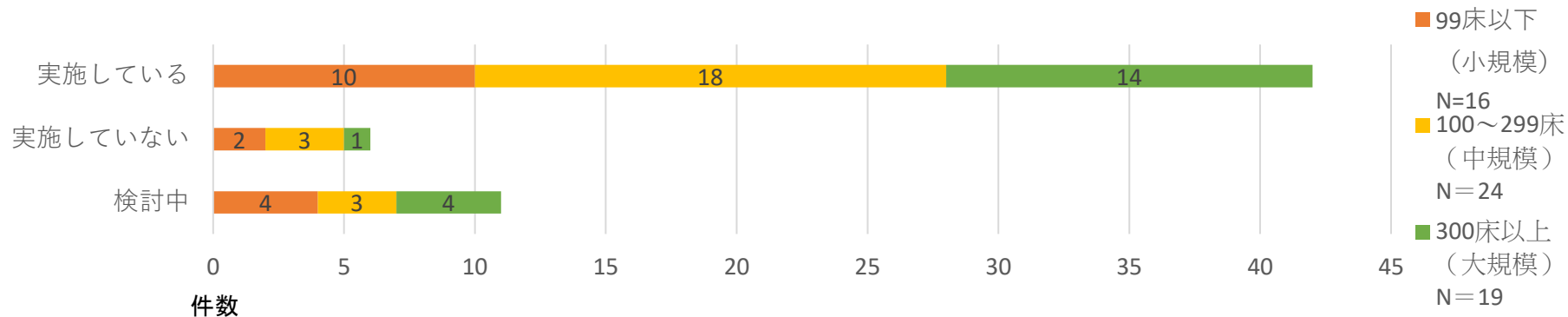
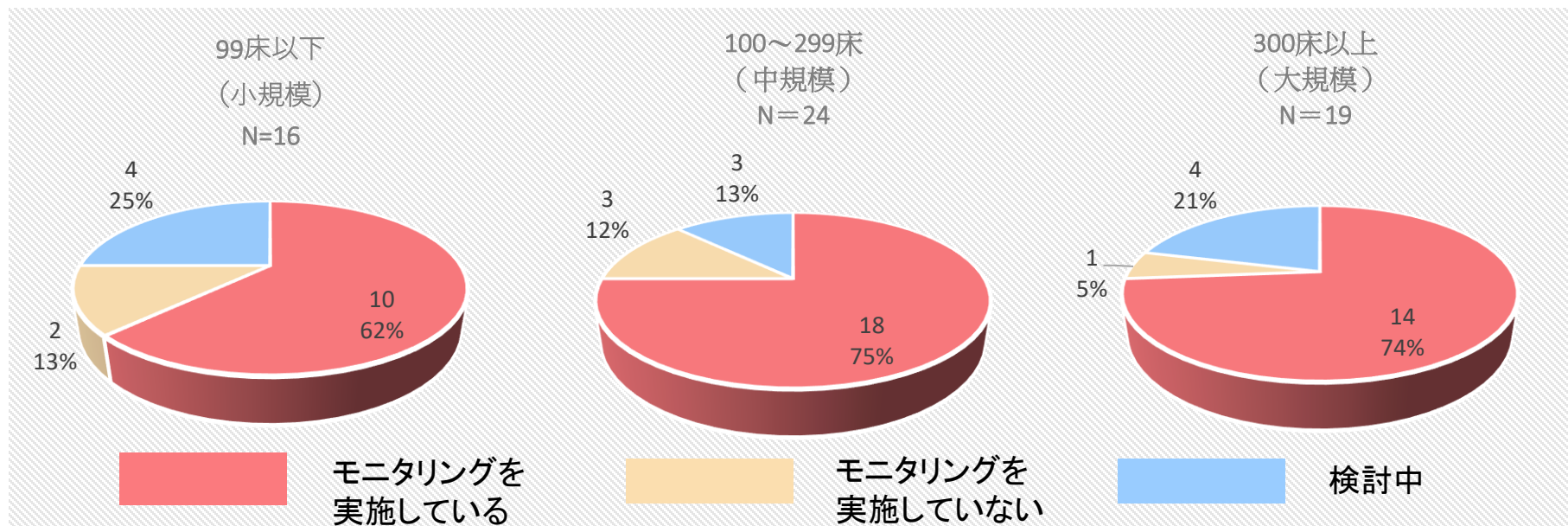
| | アクシデントと インシデント(ヒヤリハット)の 2つに分けている | アクシデント インシデントを レベル分けしている | 分けていない |
|---|--|--------------------------------|--------|
| ■ 99床以下 (小規模) N=16 | 6% | 81% | 13% |
| ■ 100~299床 (中規模) N=24 | 8% | 88% | 4% |
| ■ 300床以上 (大規模) N=19 | 11% | 89% | 0% |

Q16.インシデント事象が多い勤務帯・職種別

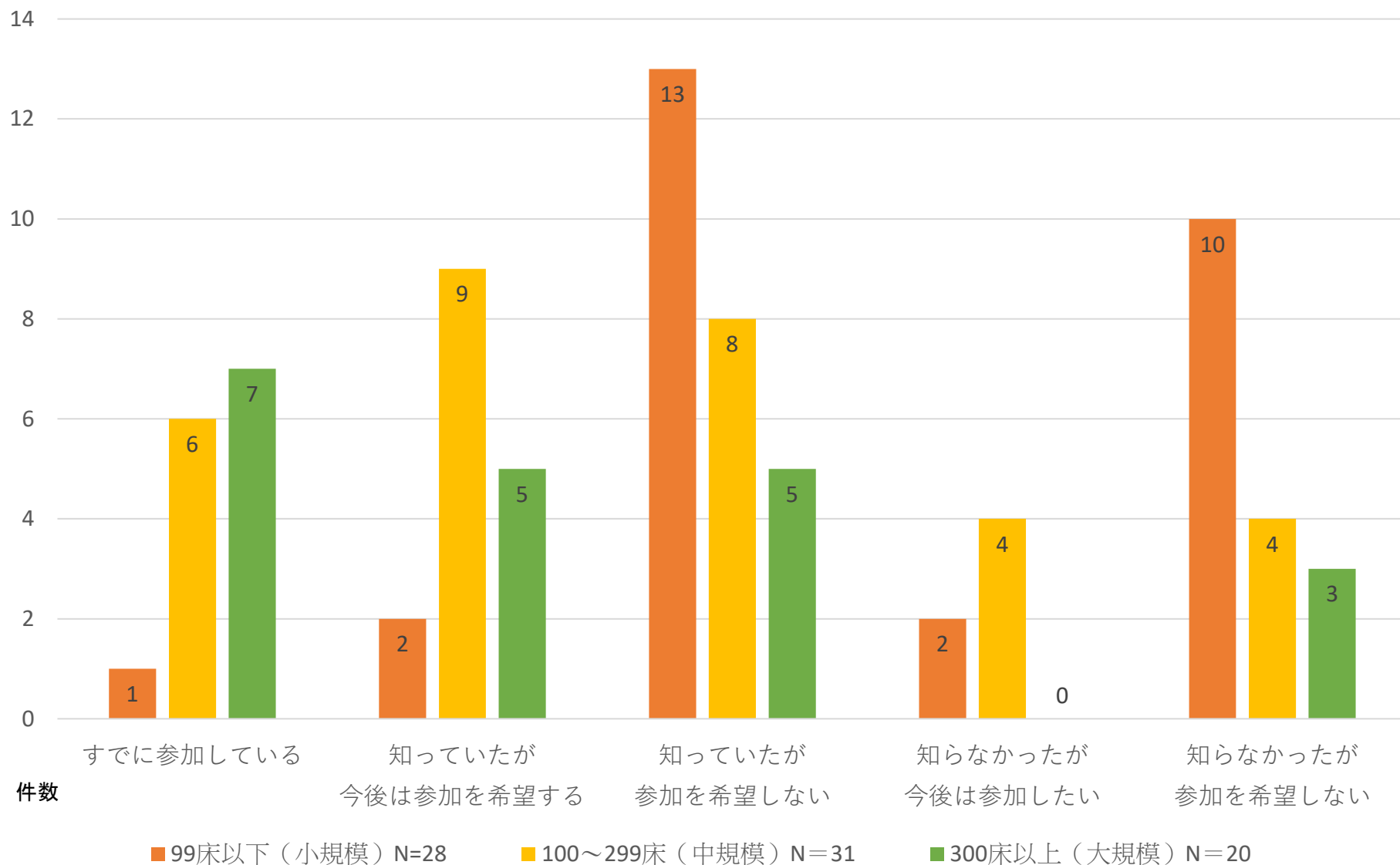
複数回答あり



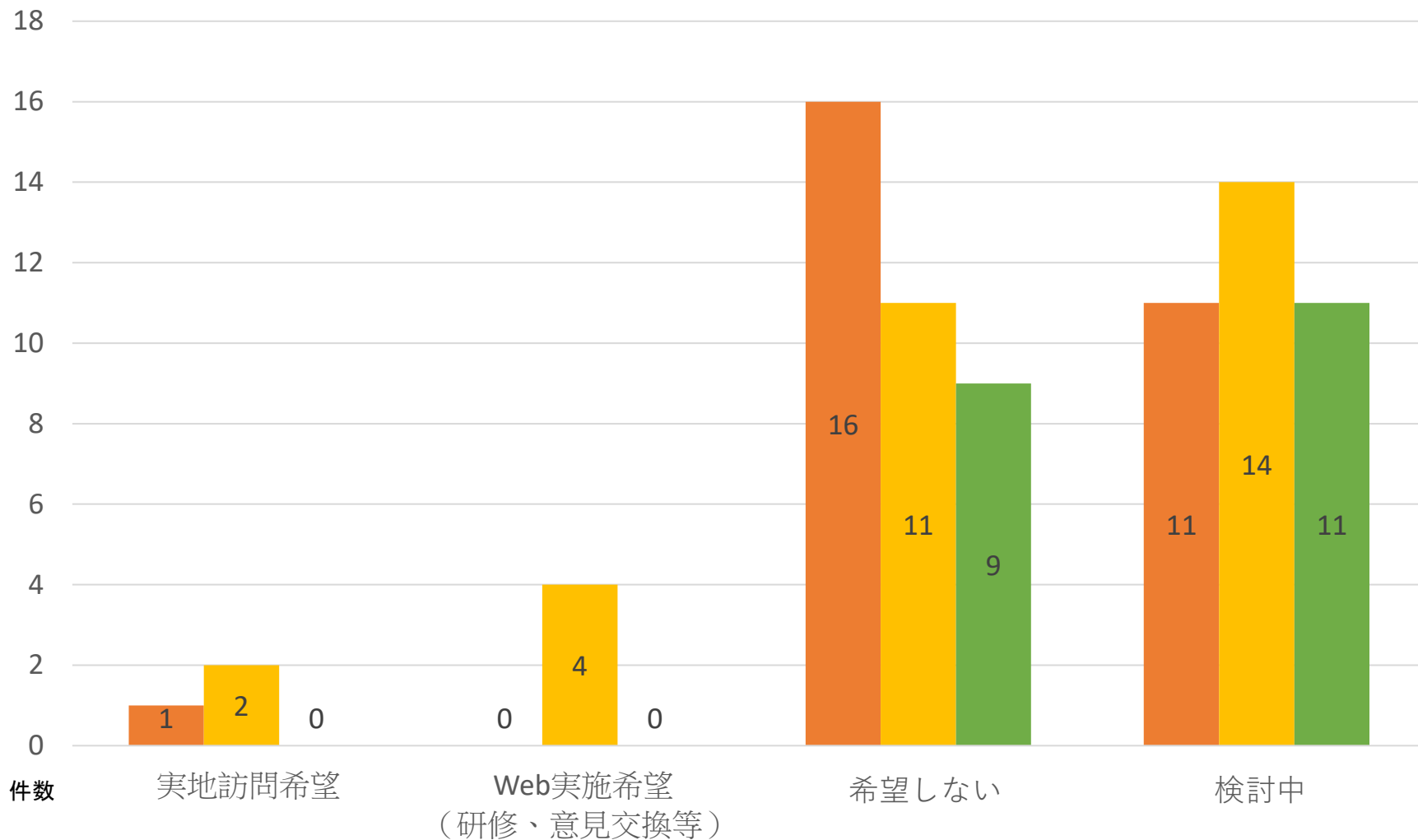
Q17.インシデント事象の分析・再発防止策後のモニタリングについて



Q18. 輸血療法部会の「輸血関連インシデント解析事業」をご存知でしたか

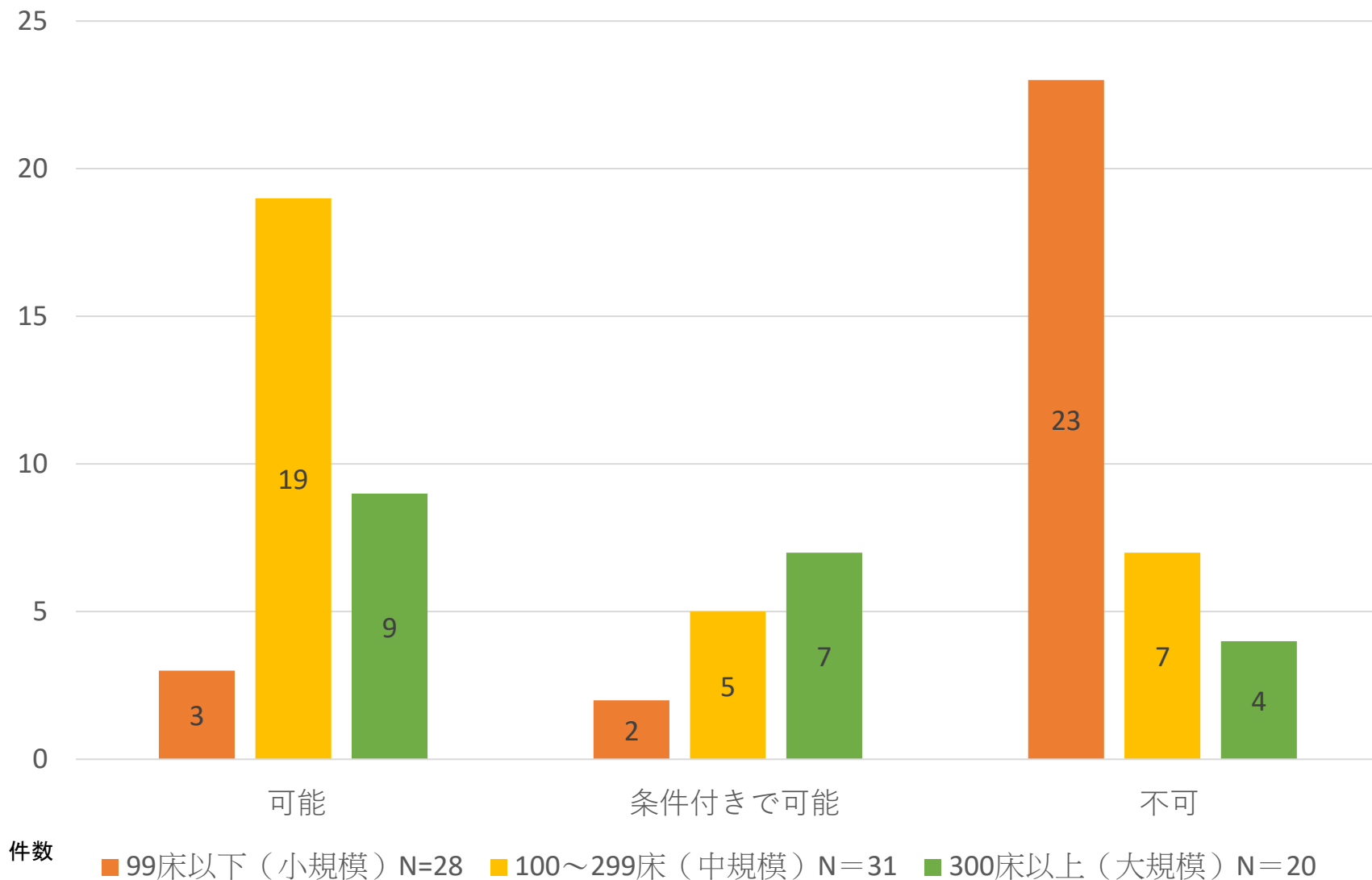


Q19. 輸血療法部会『ASSIST WG』への訪問等を希望しますか

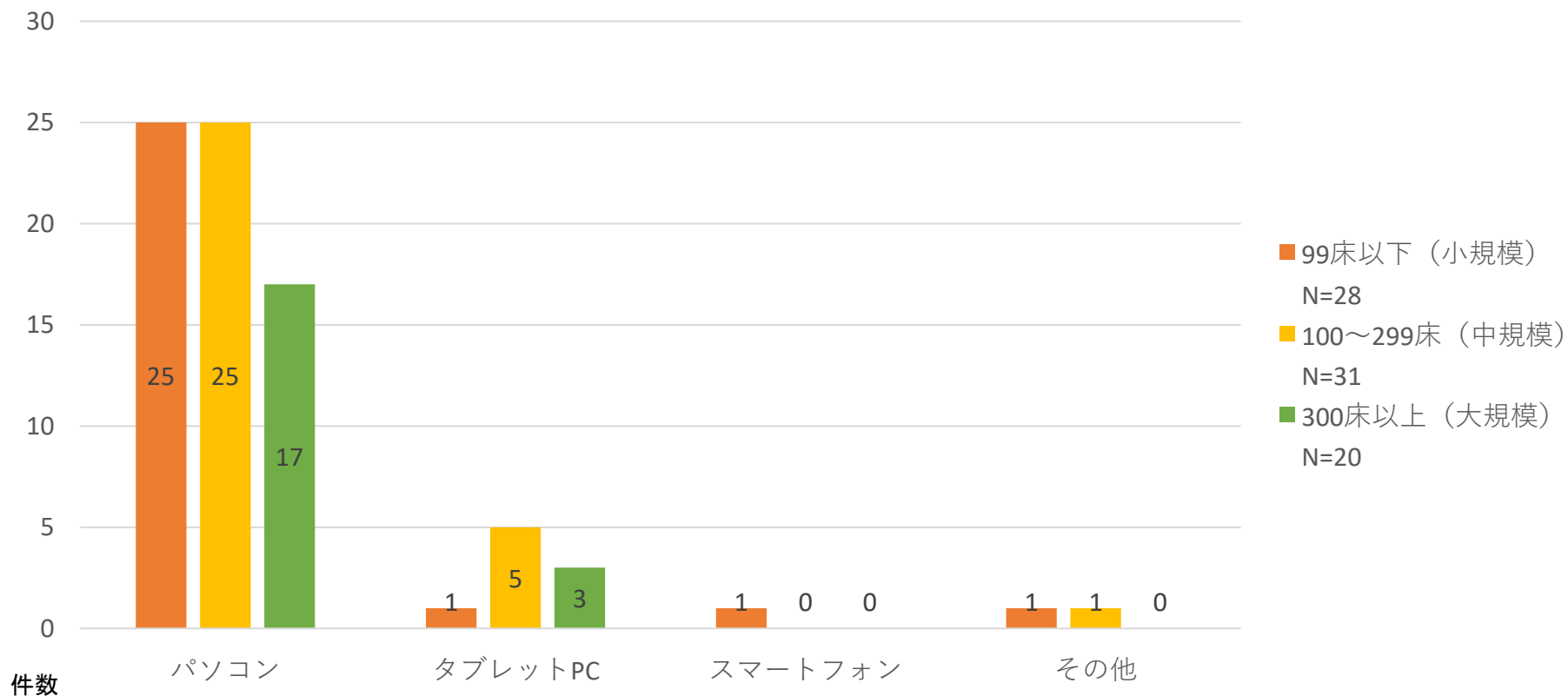


■ 99床以下 (小規模) N=28 ■ 100~299床 (中規模) N=31 ■ 300床以上 (大規模) N=20

Q20. 血液センター職員による輸血療法委員会への出席について

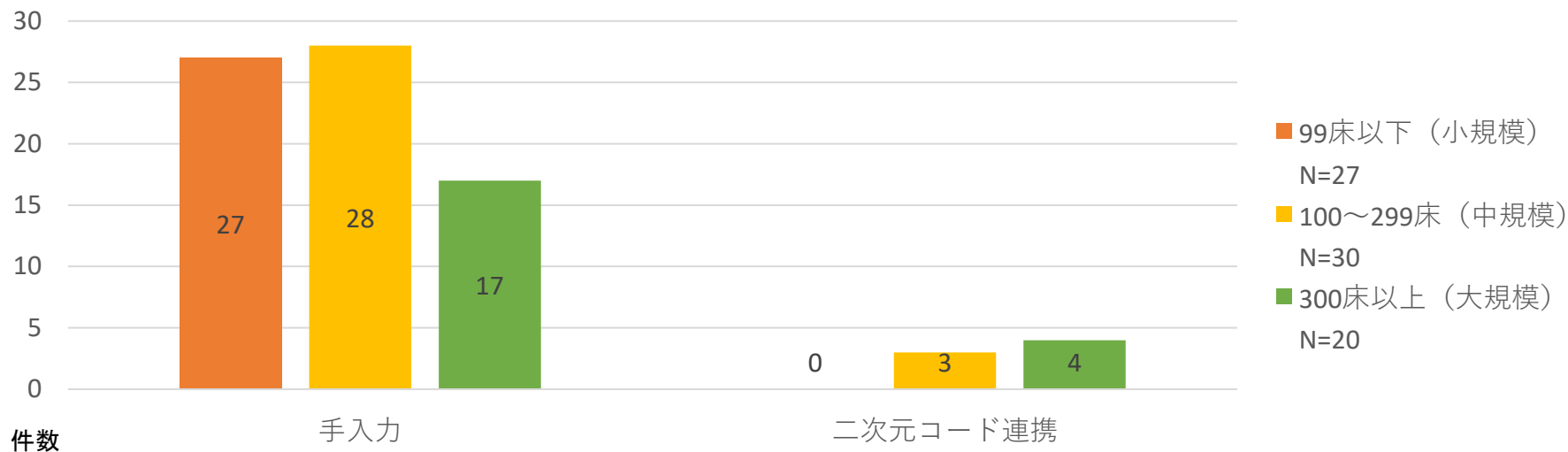


Q21. Web発注システムの入力には主にどのような機器を使用していますか

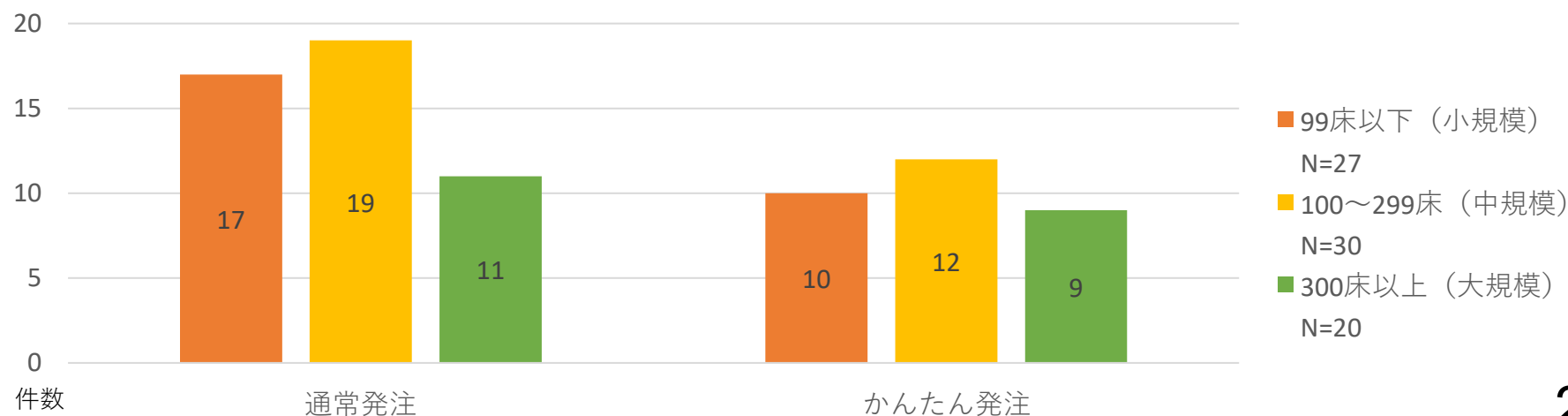


| その他内容 | |
|--------|---|
| 電話・FAX | 2 |

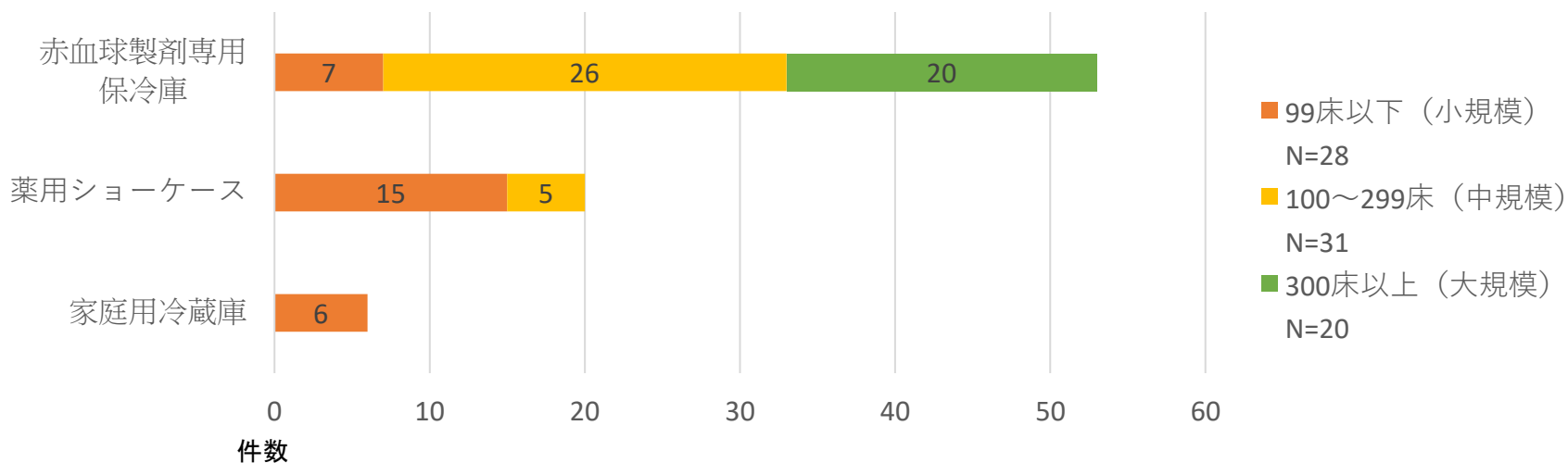
Q22. Web発注システムの入力にはどのような方法を使っていますか 複数回答あり



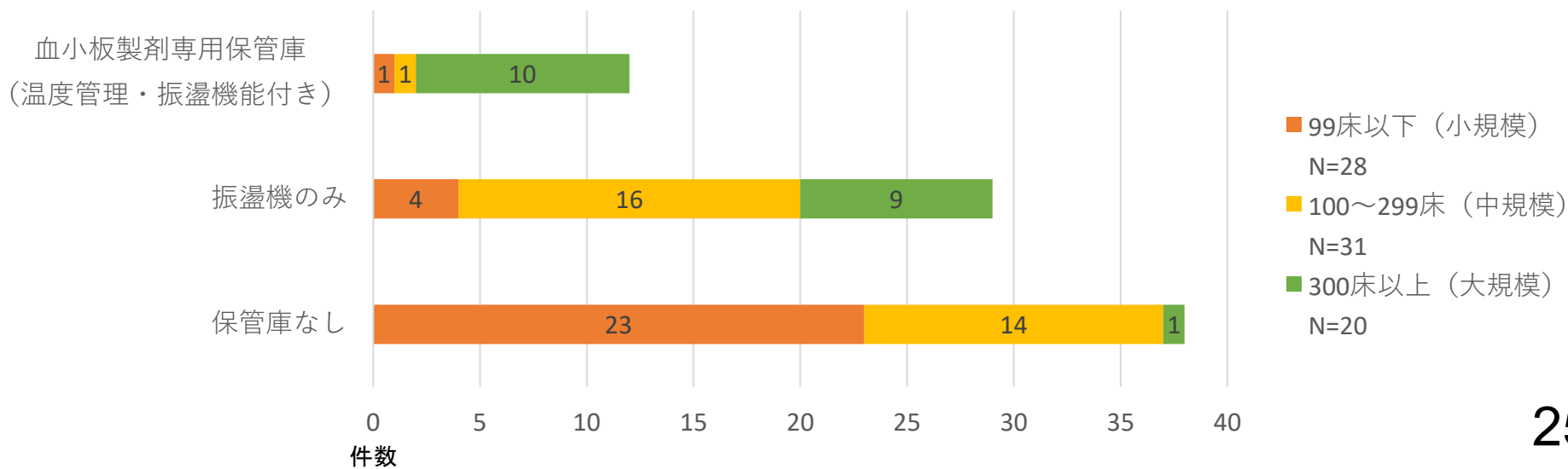
Q23. Web発注システムの血液製剤発注登録には、主にどのようなメニューを使用していますか



Q24. 赤血球製剤の保管には主にどのような機器を使用していますか



Q25. 血小板製剤の保管には主にどのような機器を使用していますか



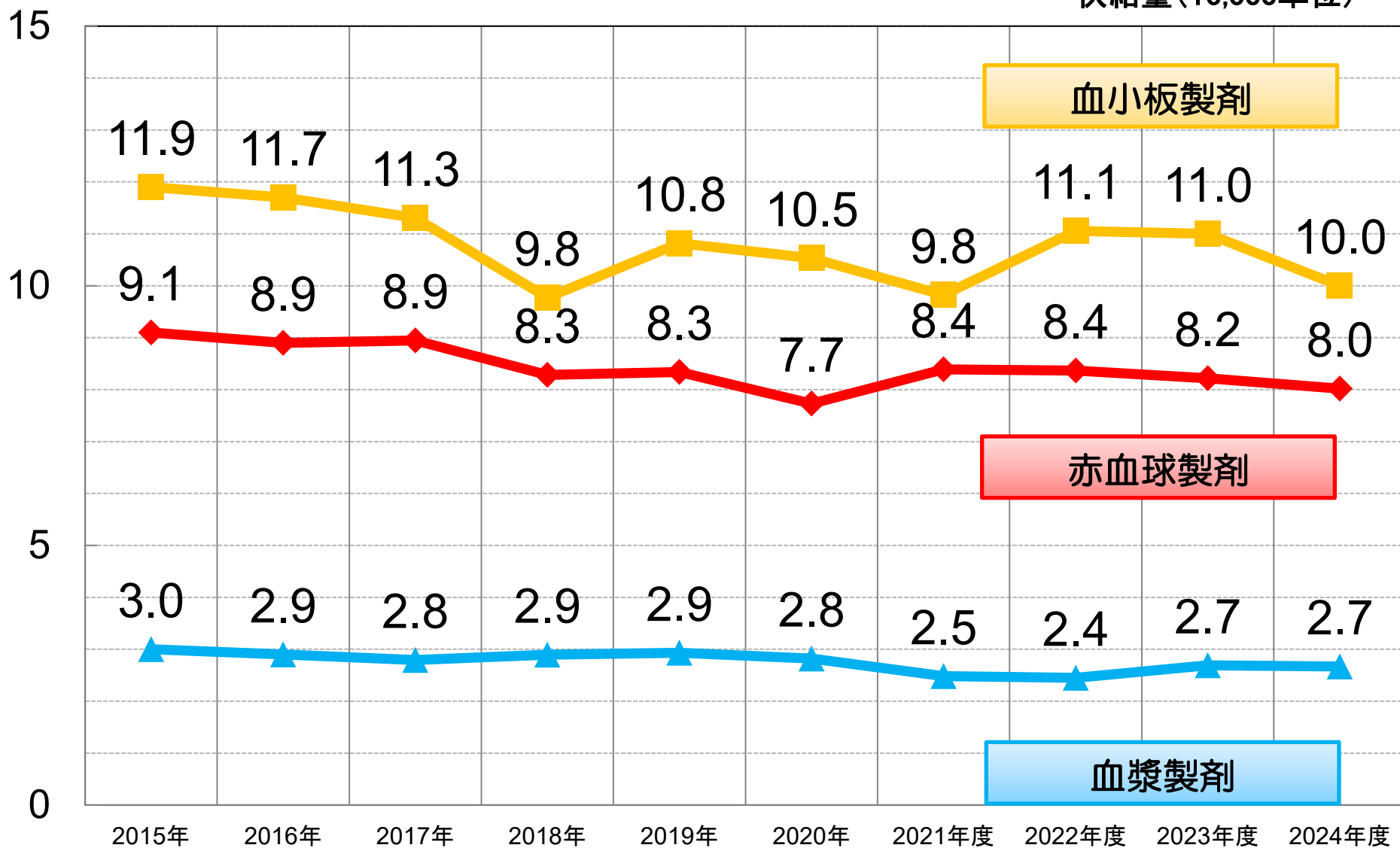
血液製剤の使用状況について

| | 回答施設数 |
|-------|-------|
| 大規模施設 | 19施設 |
| 中規模施設 | 28施設 |
| 小規模施設 | 27施設 |

輸血用血液製剤の供給数の推移について

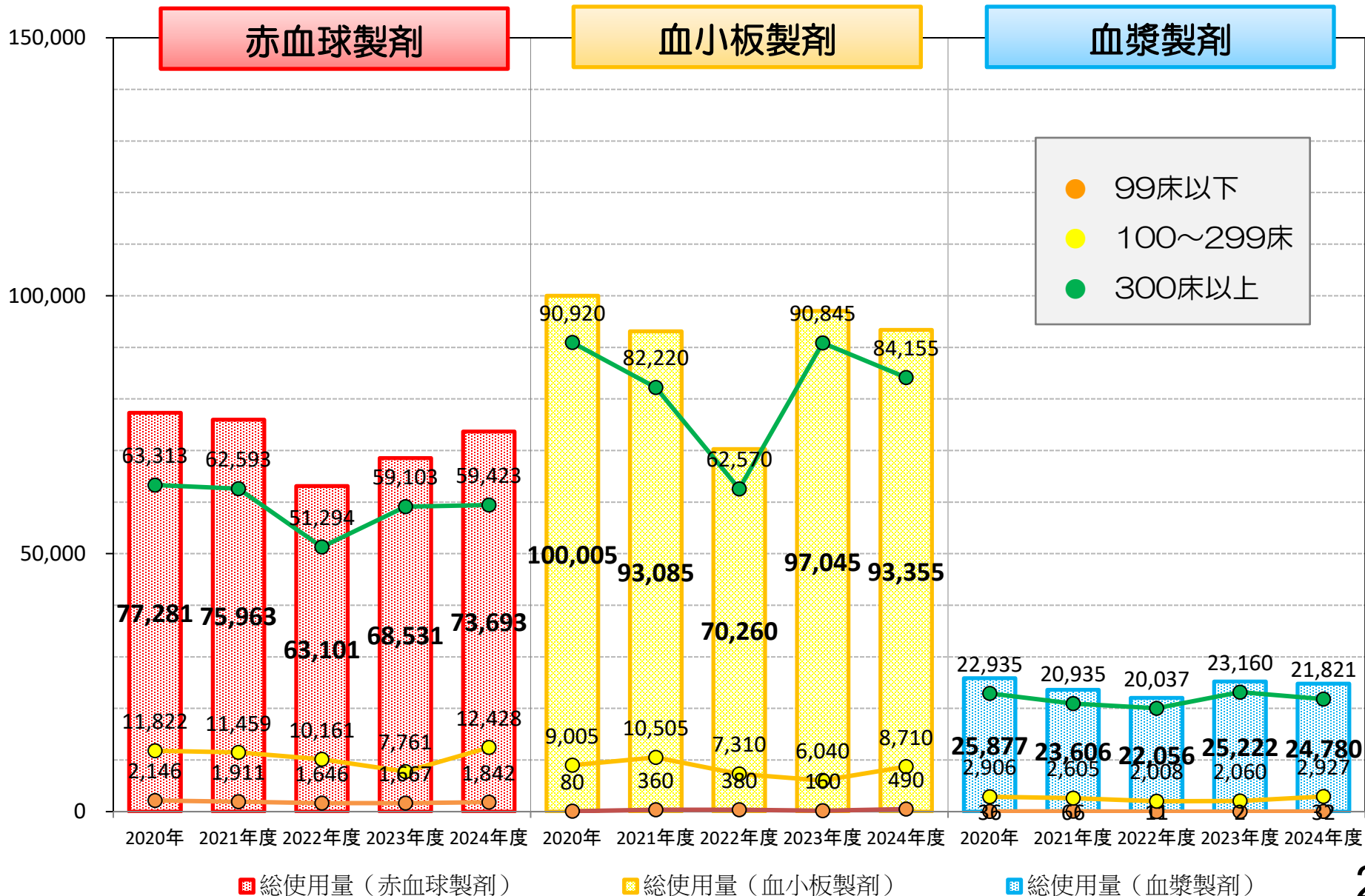
「血液事業年度報 令和6年度統計表」より引用

供給量(10,000単位)

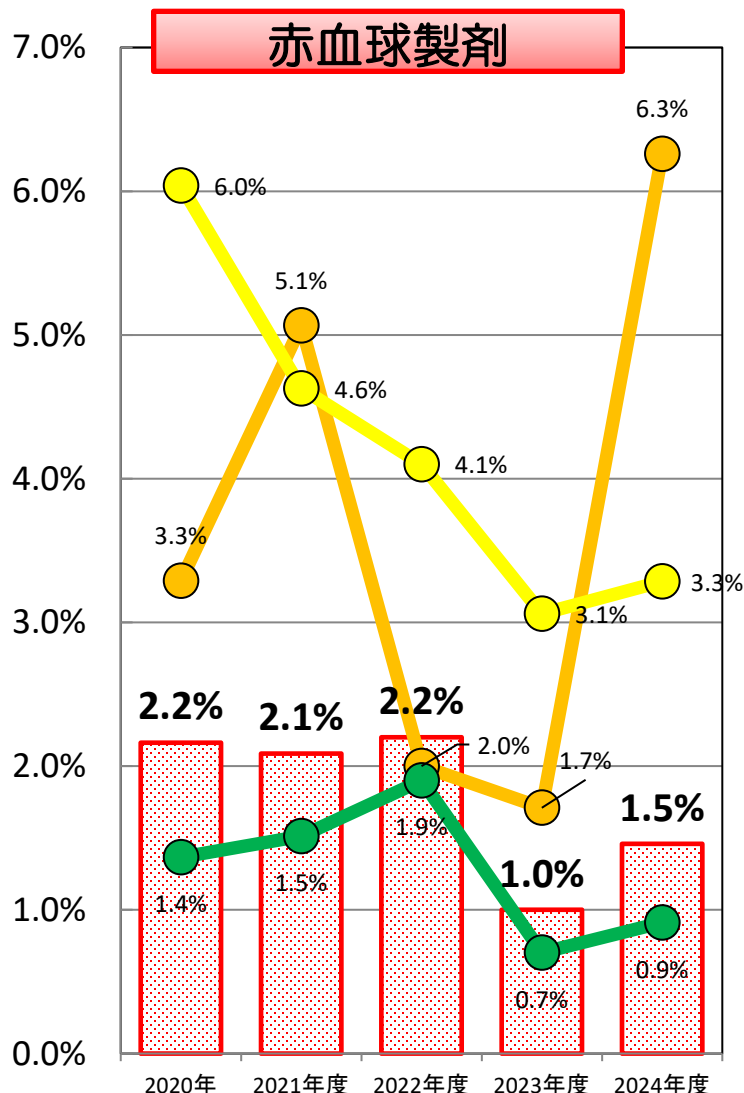


輸血用血液製剤の使用量の推移について

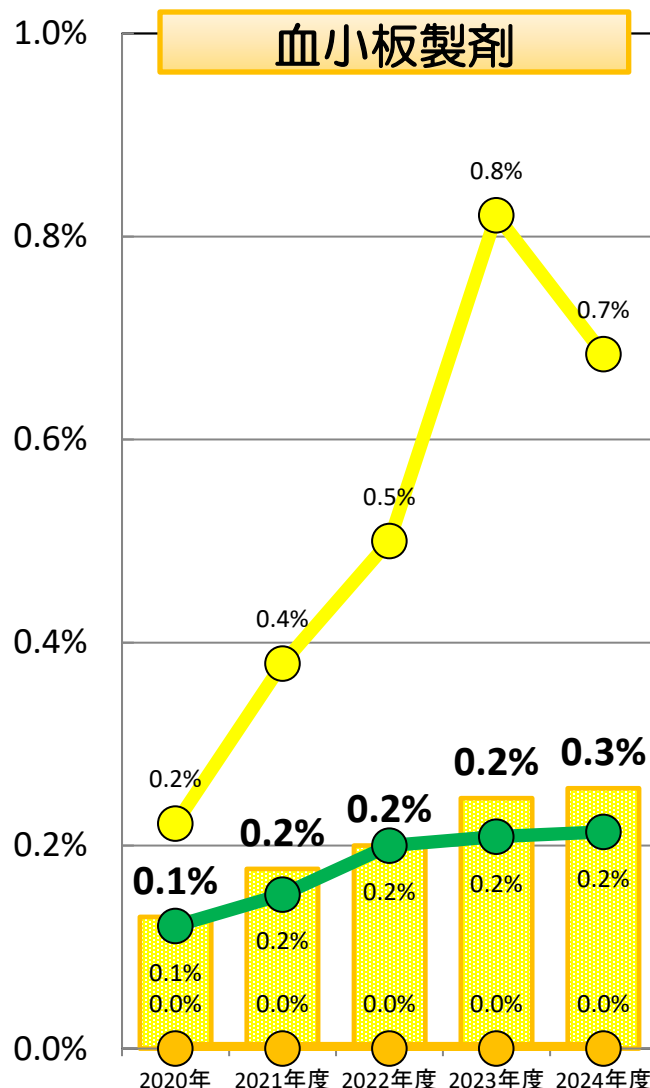
使用量(単位)



輸血用血液製剤(RBC/PC)の廃棄率の推移について



■ 全体減損率 (赤血球製剤)



■ 全体減損率 (血小板製剤)

赤血球製剤 廃棄理由

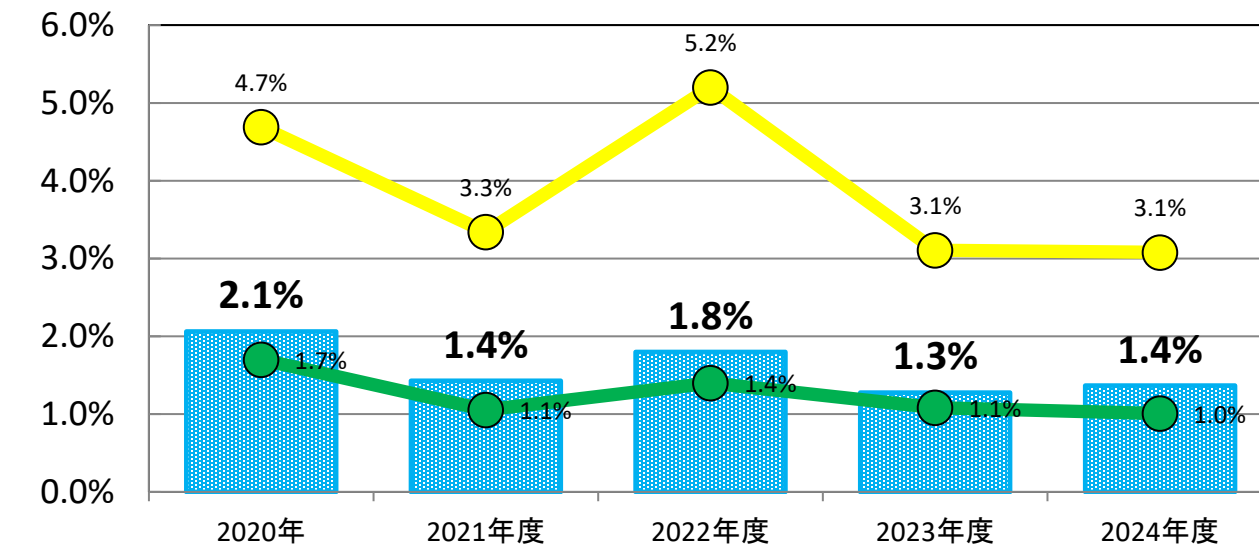
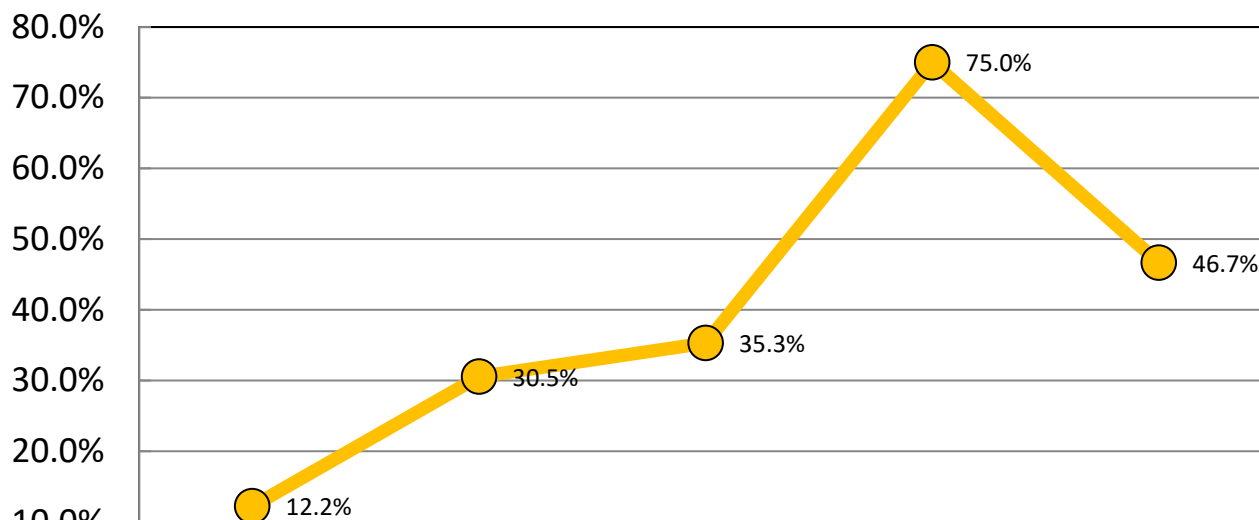
- 期限切れ
- 保管不備
- 患者死亡

血小板製剤 廃棄理由

- 期限切れ
- 患者死亡
- 保管不備

- 99床以下
- 100~299床
- 300床以上

輸血用血液製剤(FFP)の廃棄率の推移について

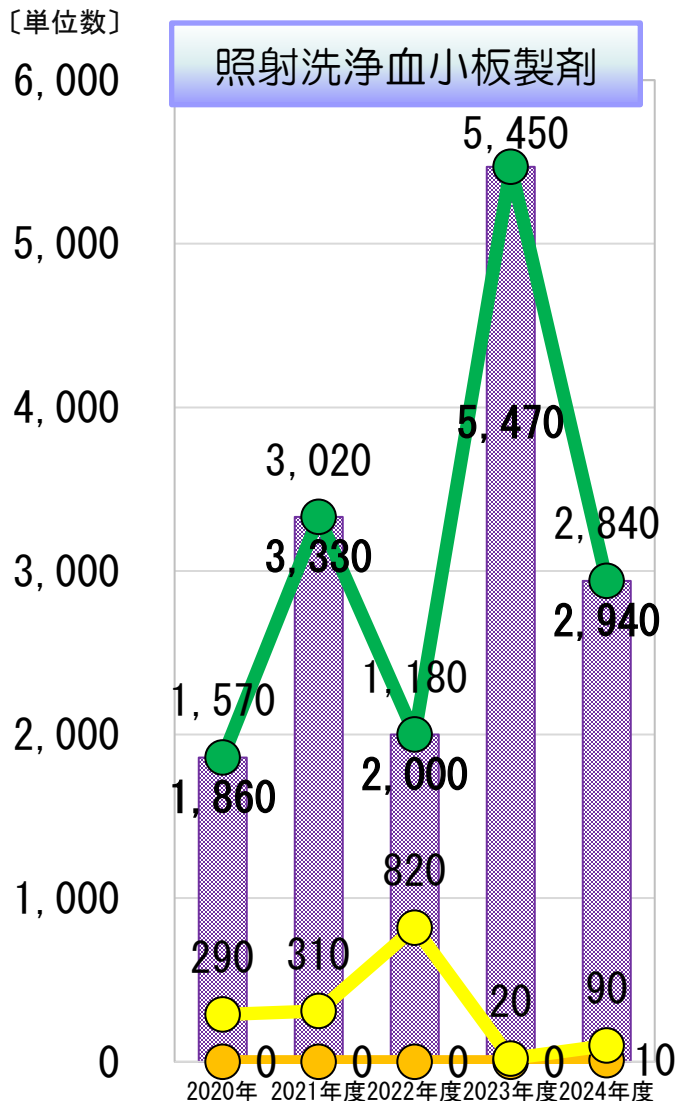


■ 全体減損率 (血漿製剤)

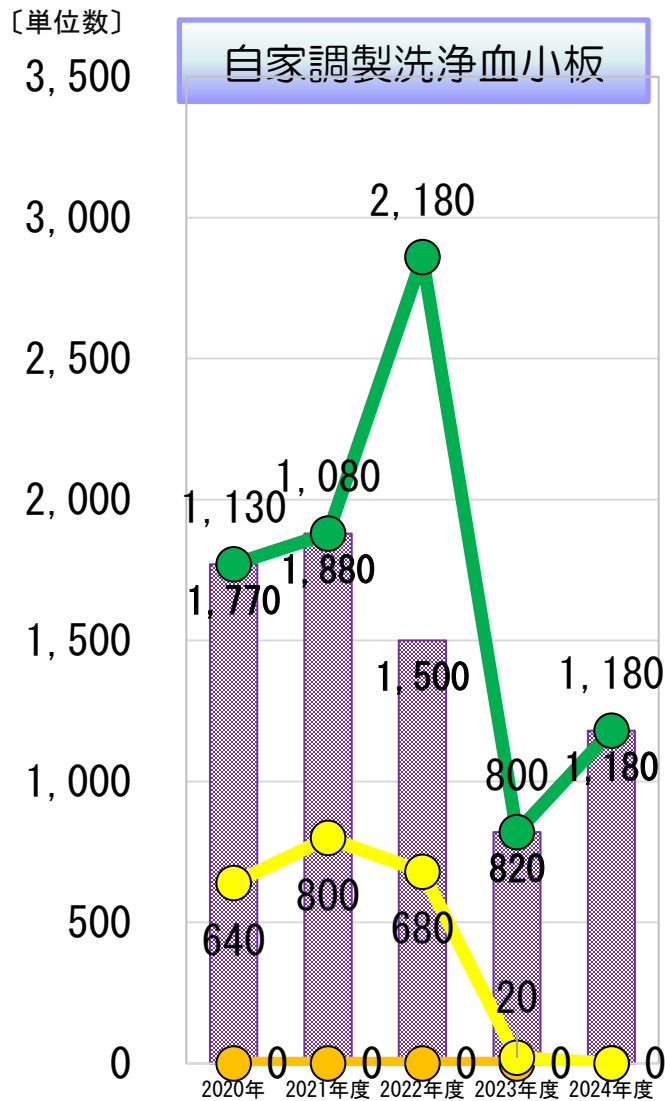
| 血漿製剤廃棄理由 | |
|----------|--|
| 期限切れ | |
| 破 損 | |
| 管理不備 | |
| 融解後未使用 | |



洗浄血小板製剤・その他血液製剤の使用状況について



■ 洗淨血小板製剤全体



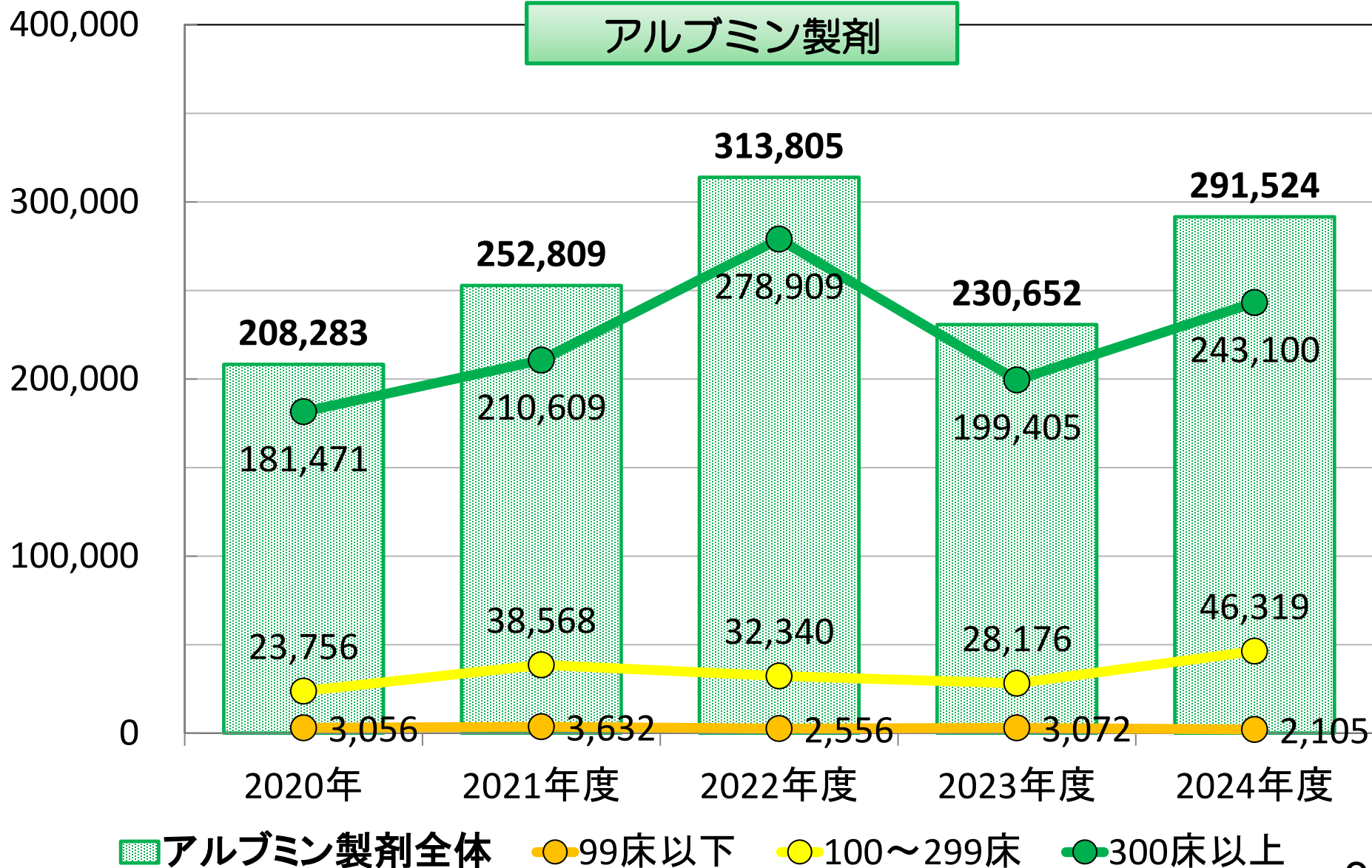
■ 洗淨血小板製剤全体

| その他製剤 | 使用単位数 | 廃棄単位数 |
|--------|-------|-------|
| 全血製剤 | 0 | 0 |
| 洗浄赤血球液 | 156 | 0 |
| 解凍赤血球液 | 0 | 0 |
| 合成血 | 0 | 0 |

| |
|------------|
| ● 99床以下 |
| ● 100~299床 |
| ● 300床以上 |

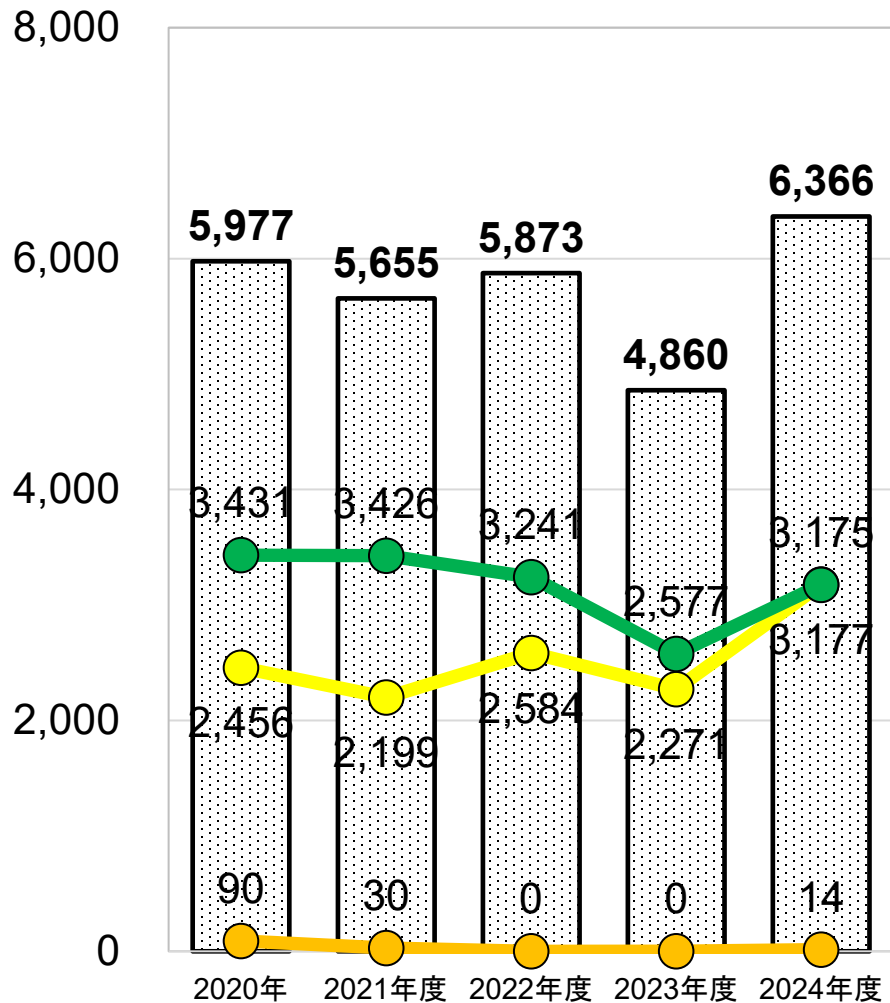
アルブミン製剤の使用状況について

アルブミン製剤使用量(g)

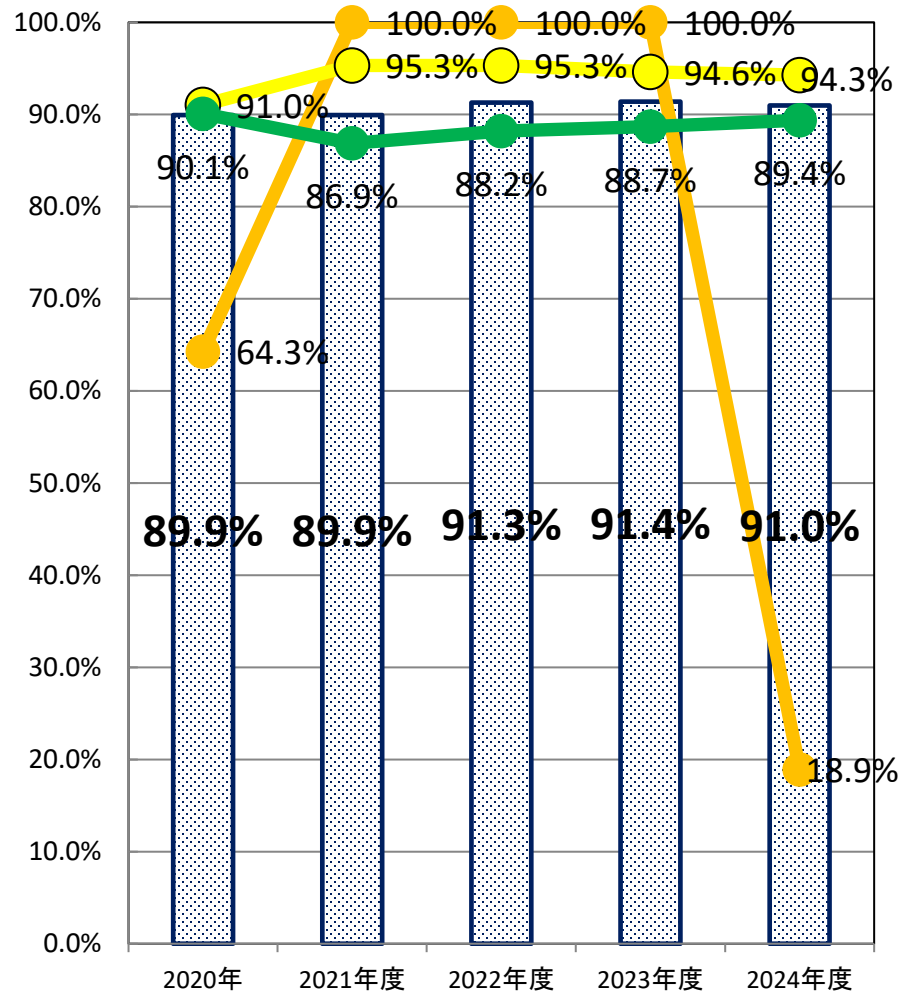


貯血式自己血輸血の実施状況について

貯血式自己血 使用量(単位)



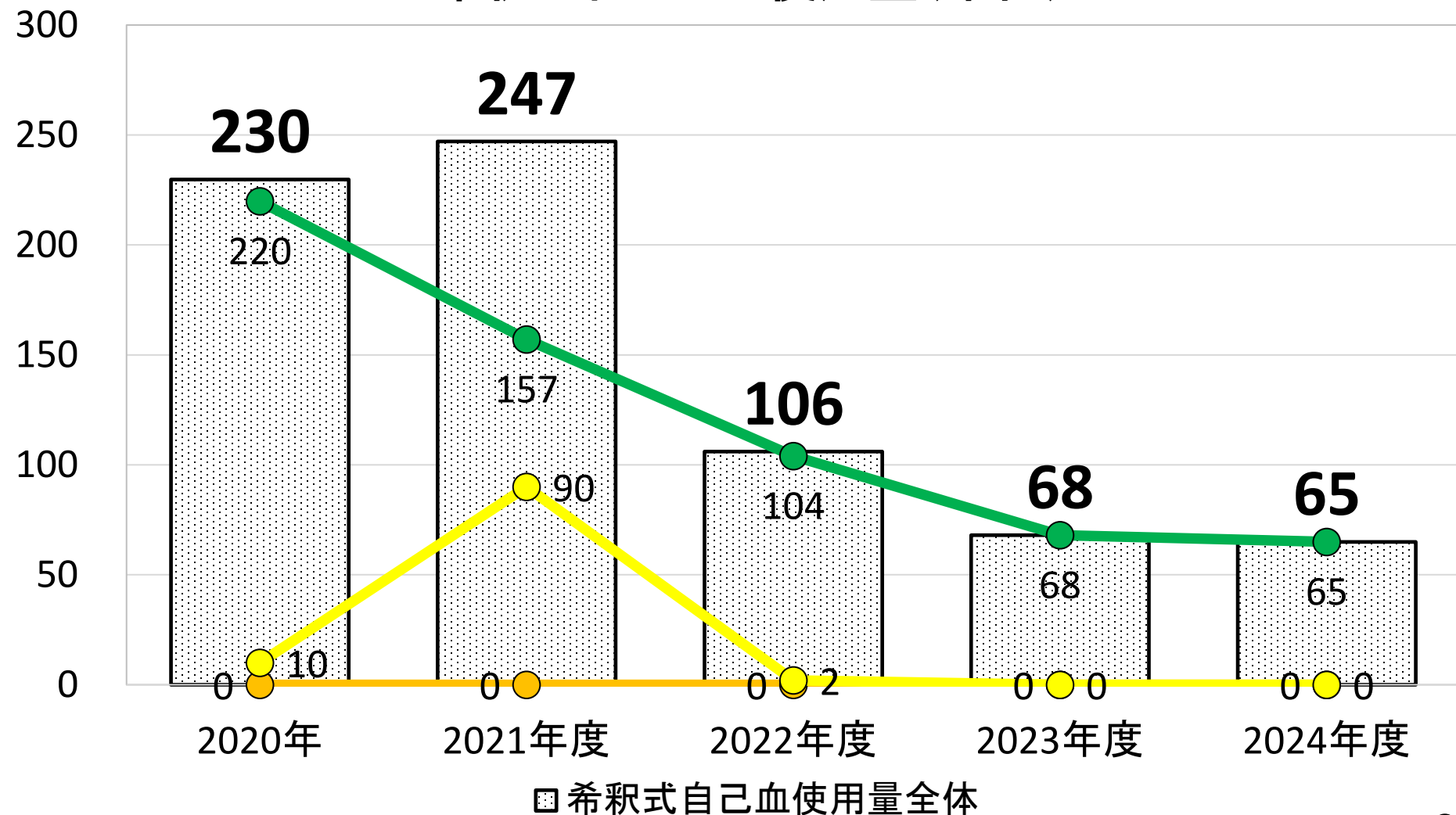
貯血式自己血 使用率



貯血式自己血使用量全体
 99床以下
 100~299床
 300床以上

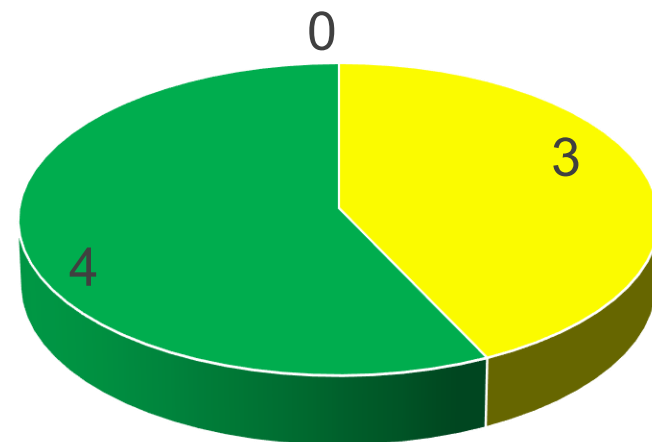
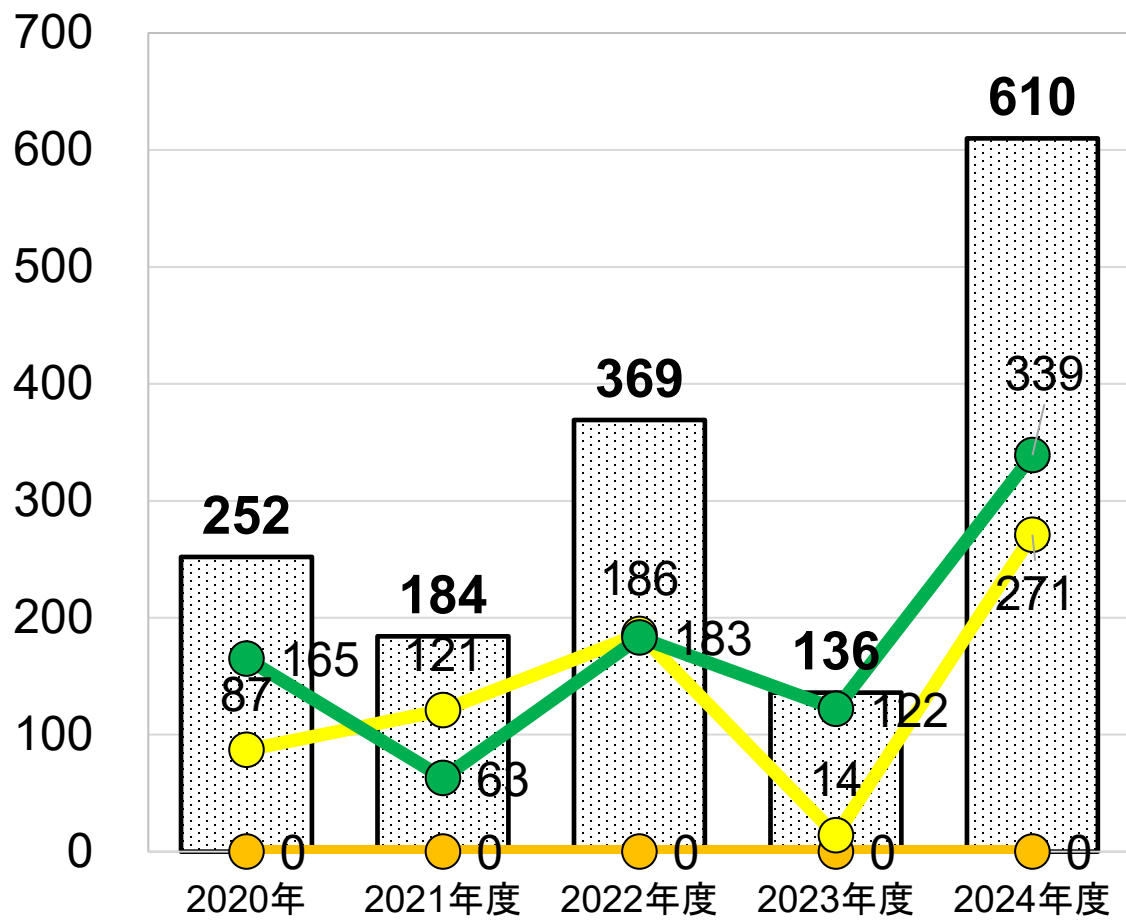
希釈式自己血輸血の実施状況について

希釈式自己血 使用量(単位)



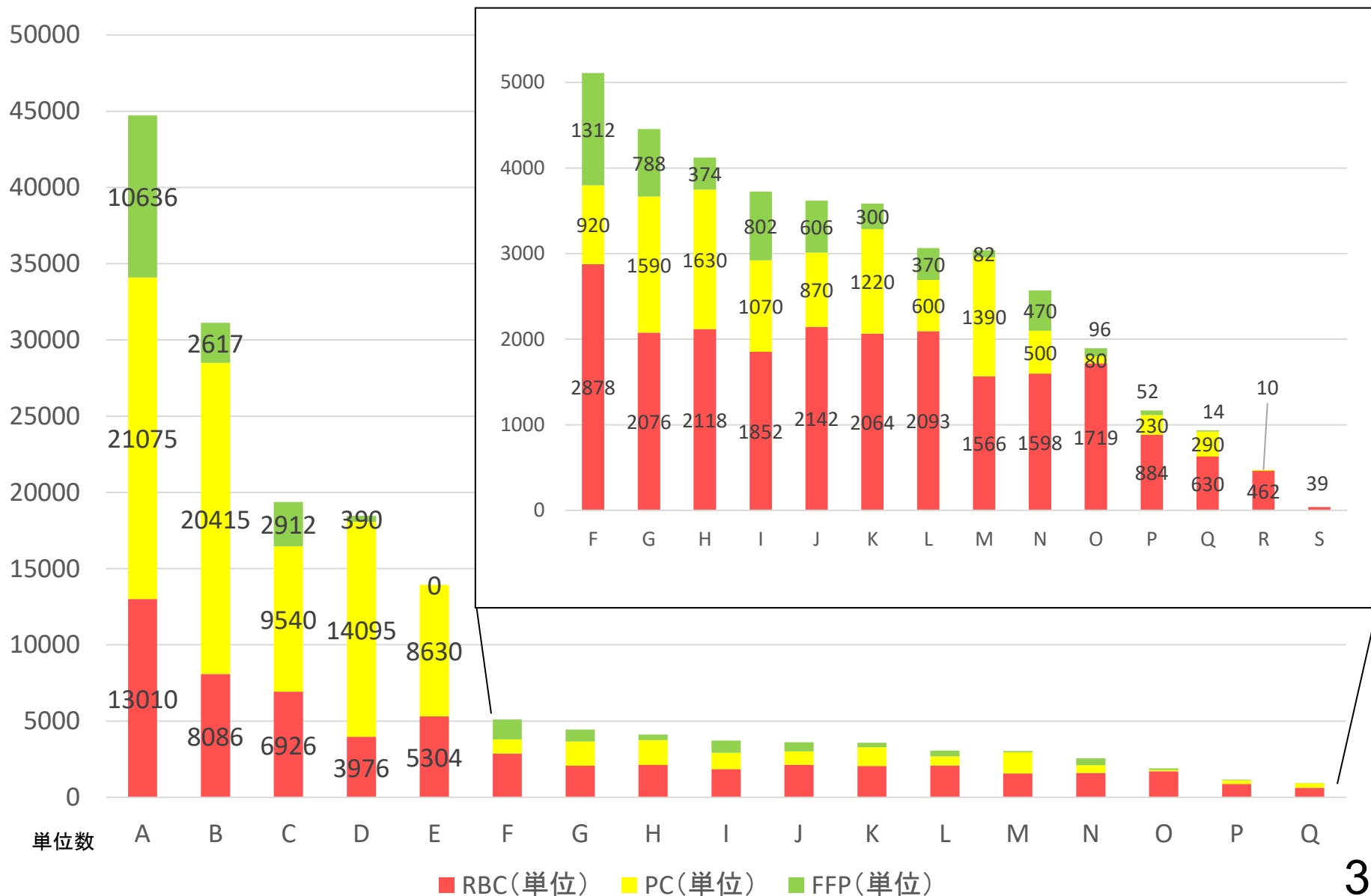
回収式自己血輸血の実施状況について

回数 回収式自己血 実施回数

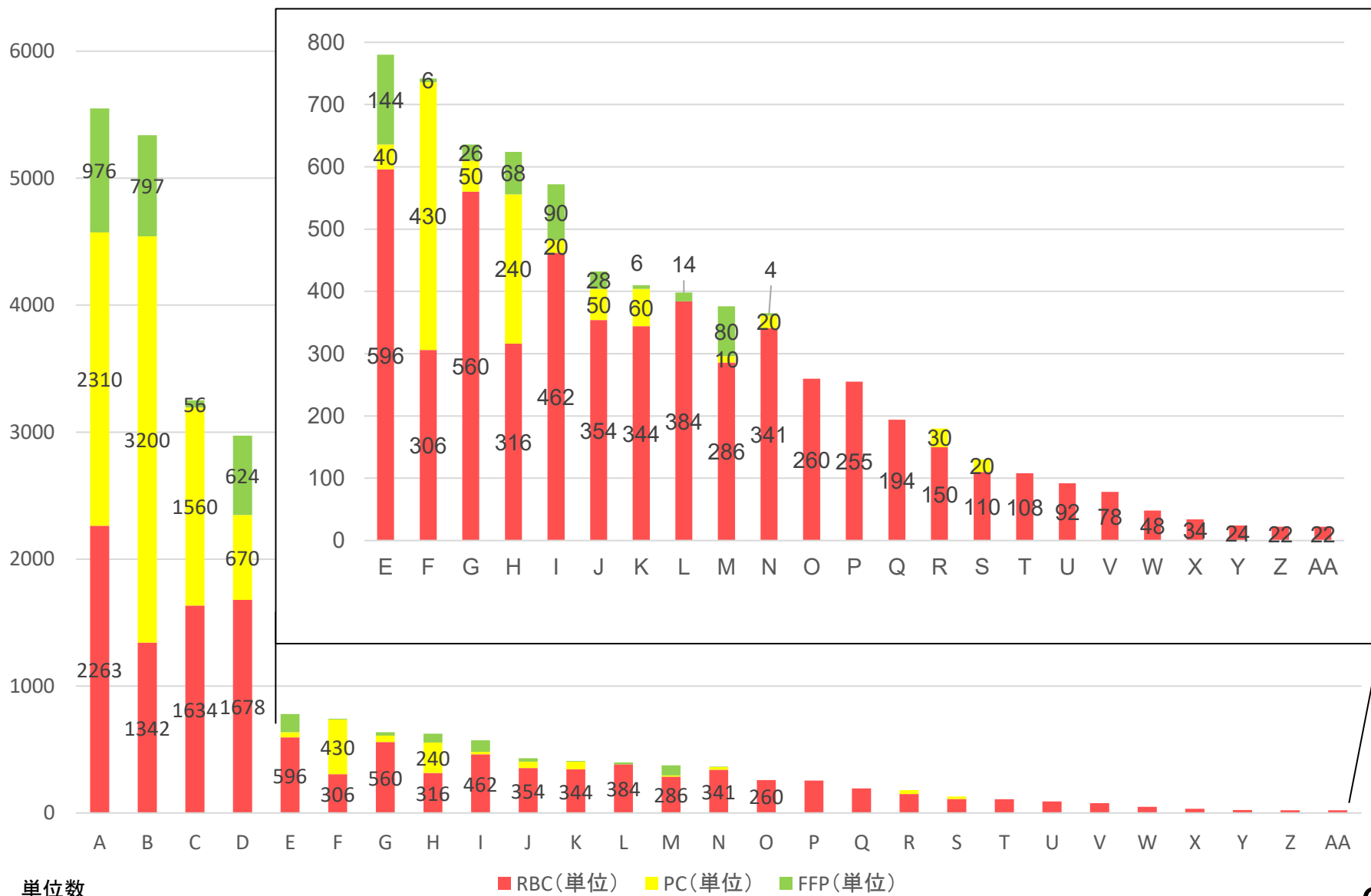


回収式自己血実施回数全体
 99床以下
 100～299床
 300床以上

大規模施設(300床以上)使用単位数



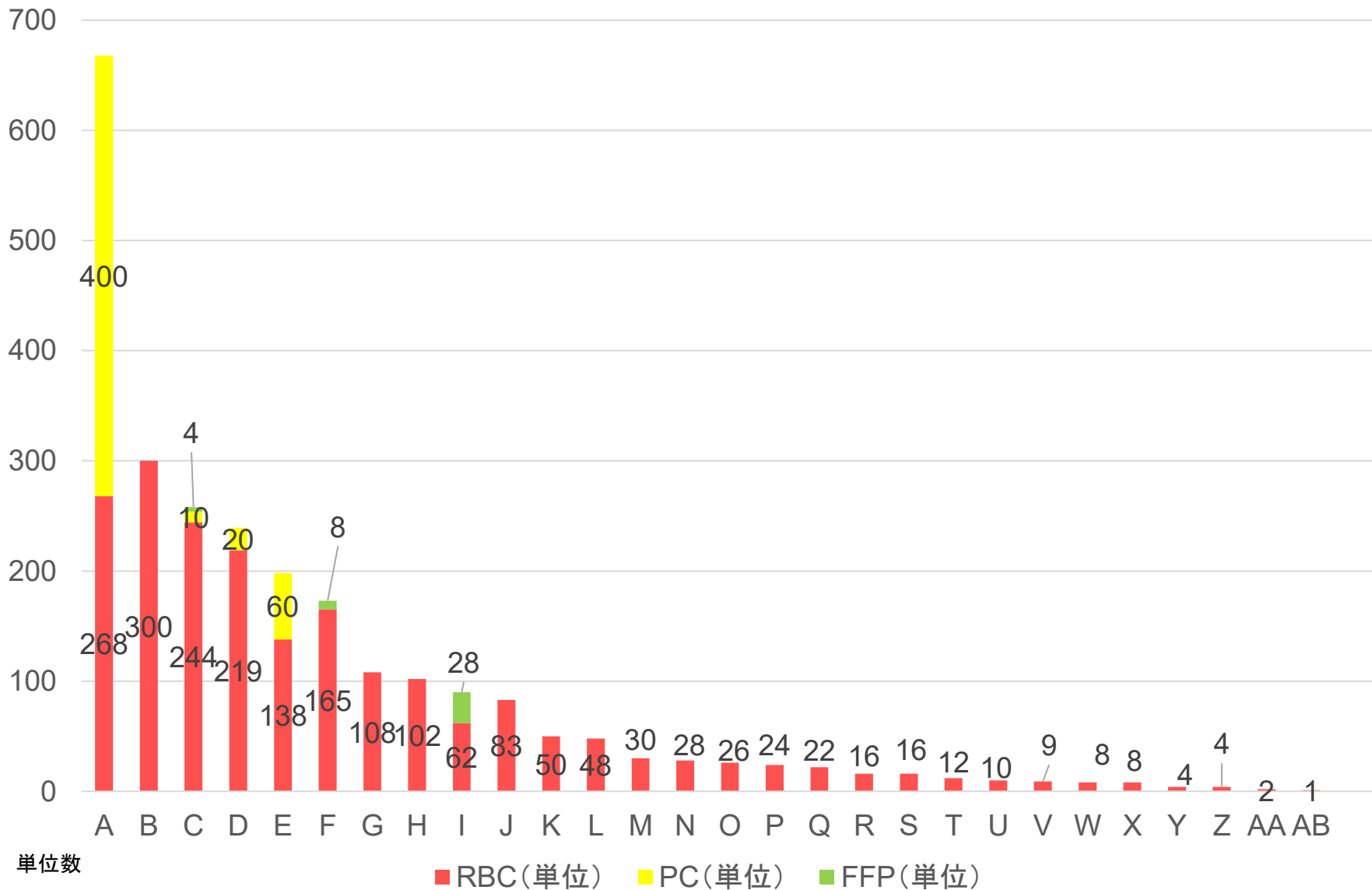
中規模施設(100~299床)使用単位数



単位数

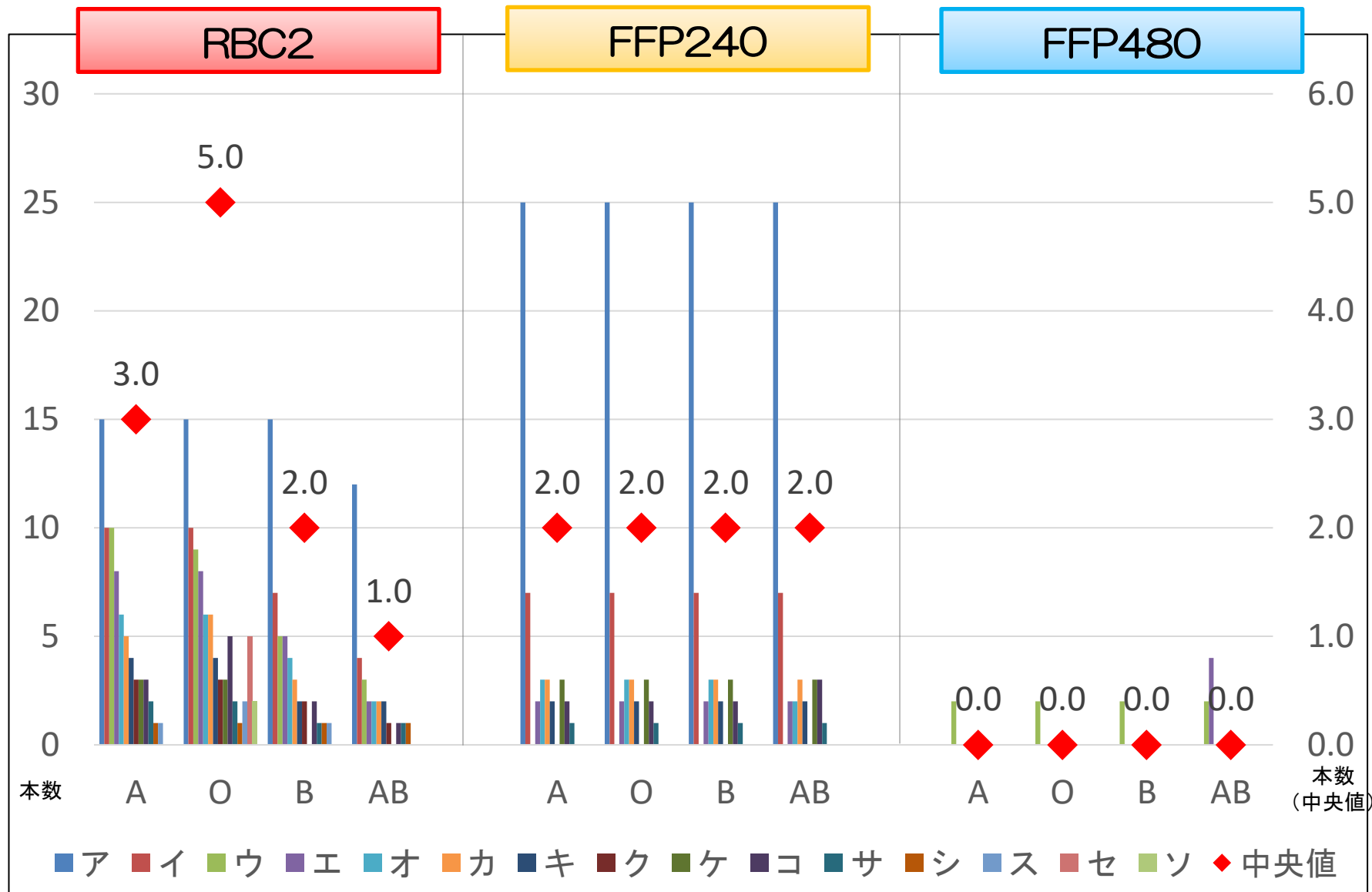
RBC(単位) PC(単位) FFP(単位)

小規模施設(99床以下)使用単位数

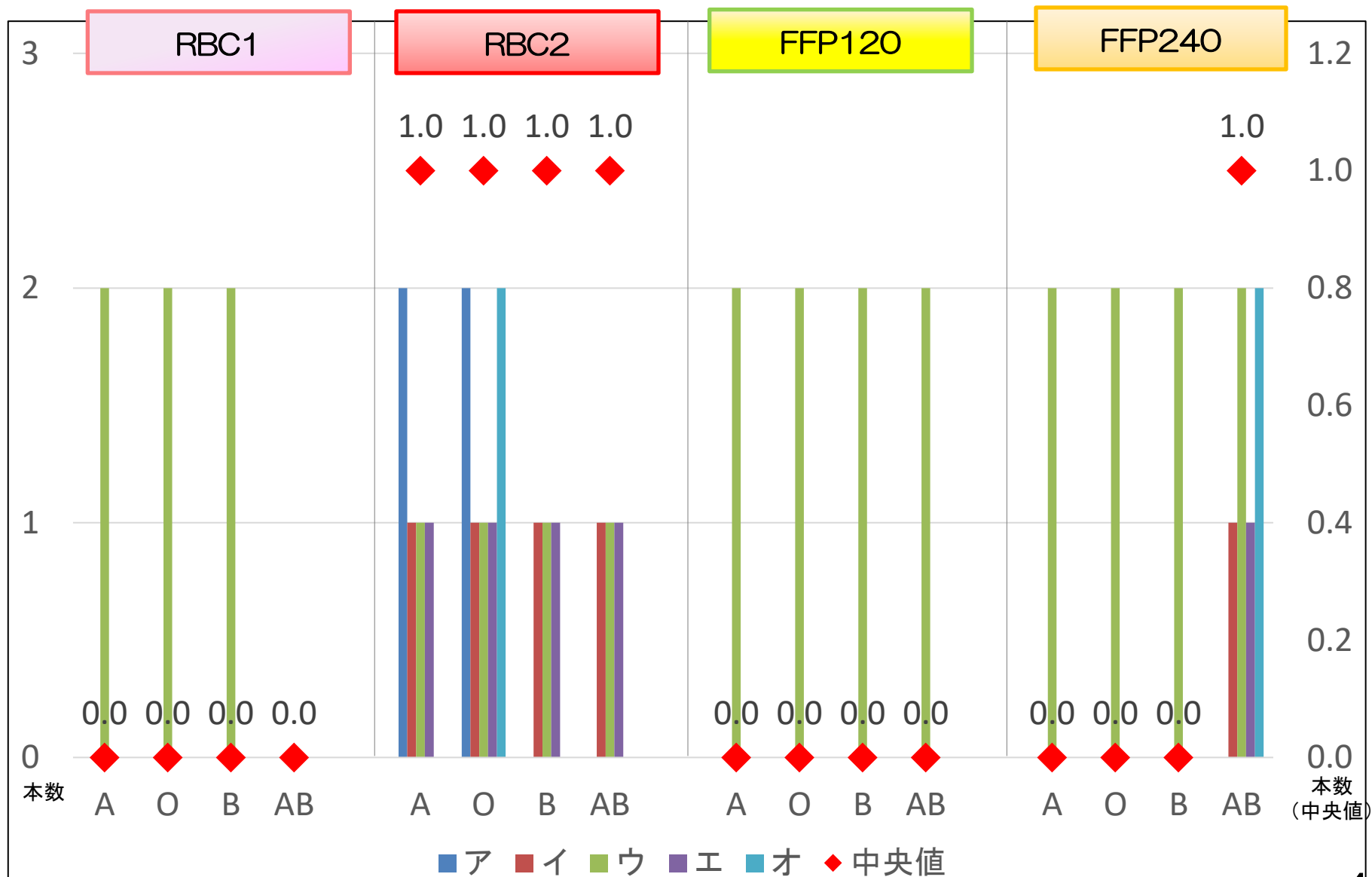


大規模施設(300床以上)院内在庫数

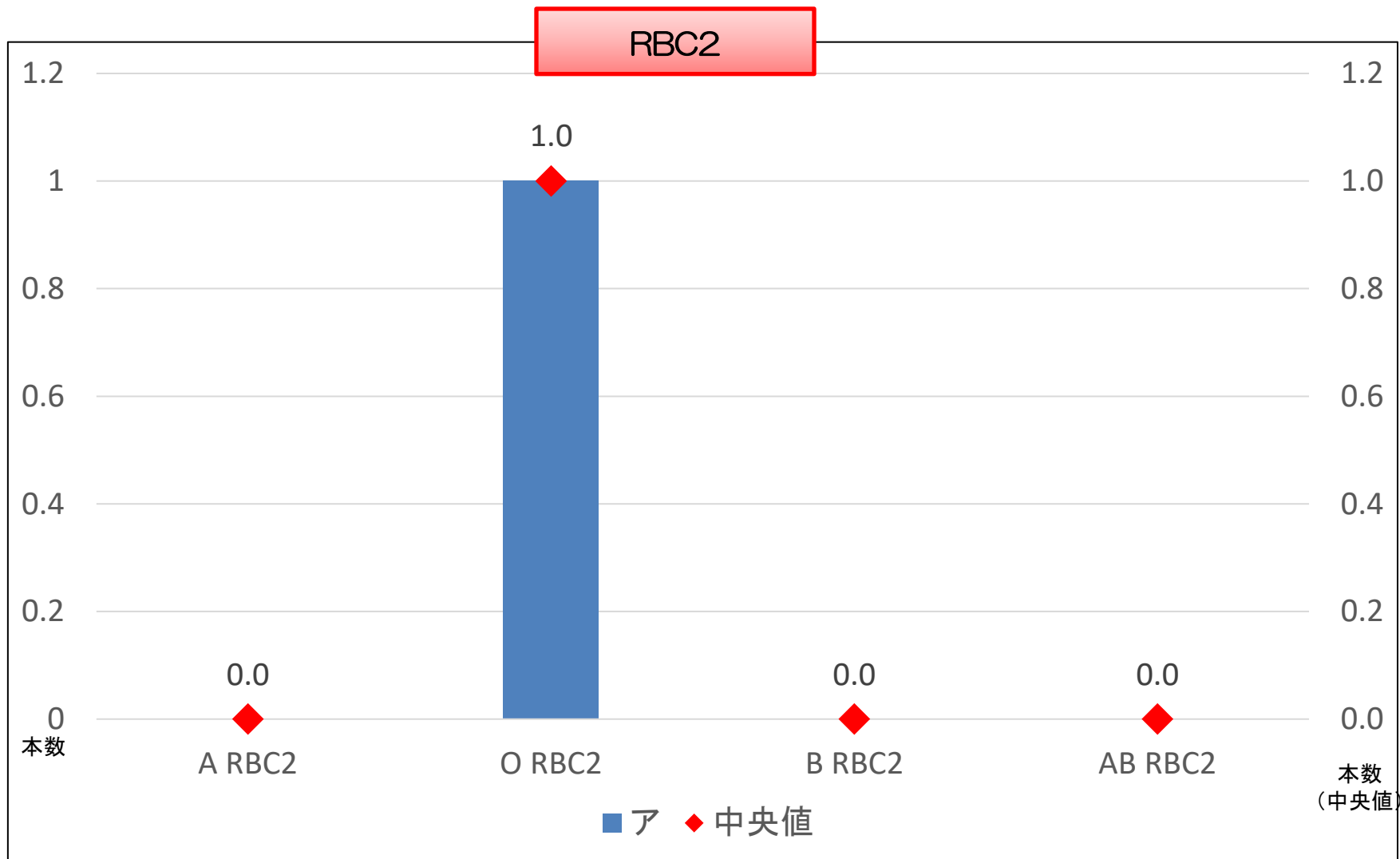
N=15 (三次救急医療機関7施設含)



中規模施設(100~299床)院内在庫数 N=5



小規模施設(99床以下)院内在庫数 N=1



まとめ

- ・前年度より回答施設が12.2%増加した。
- ・インシデント発生件数は前年度と同様、夜勤・当直帯が最も多かった。
- ・血液製剤の保管庫について調査した。施設規模によって使用する保管庫の種類に違いを認めた。
- ・血液製剤の供給量、使用量はほぼ横ばいに推移している。
- ・洗浄血小板の使用量は前年度より減少したが、自家調整の洗浄血小板の使用量は増加した。
- ・貯血式自己血、回収式自己血は過去5年間で最も多く、希釈式自己血は最も少なかった。
- ・院内在庫の製剤種類別の本数と、保有施設の中央値を新たに調査した。